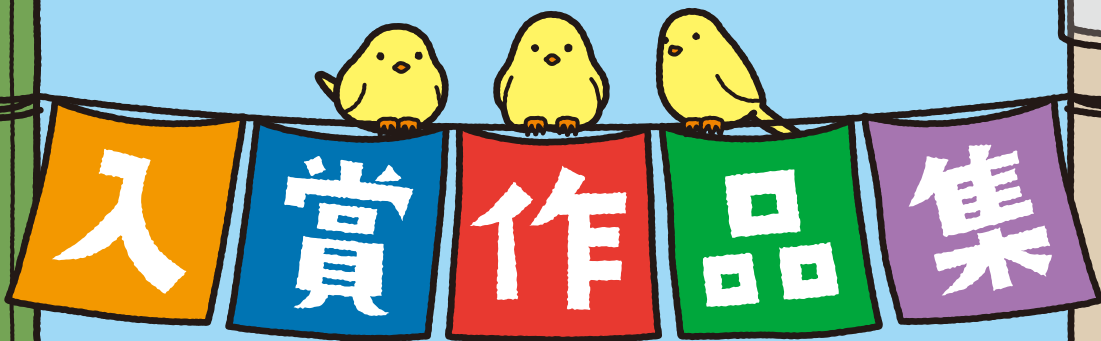


第45回 全労済 東京

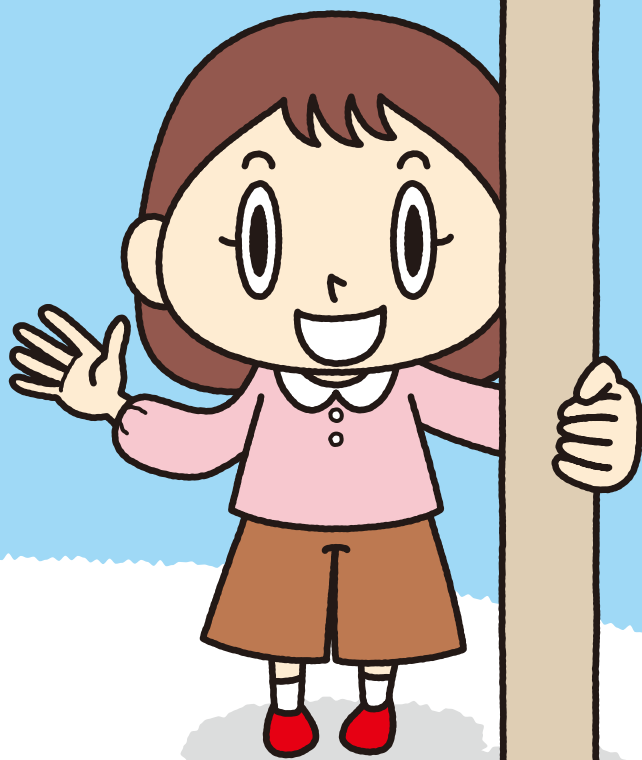
小学生作品コンクール



テーマ

作文：つづけていきたいこと

版画：自由課題



主催：全労済東京推進本部

後援：東京都教育委員会



挨拶する高須本部長（後ろは手話通訳）

二月二十五日(日)十時三十分より、全労済東京会館三階会議室において、第四十五回全労済東京小学生作品コンクールの表彰式が開催されました。表彰式には、作文・版画の金賞・銀賞入賞者三十名と、そのご家族やご指導された先生方、総勢一〇〇名の方々にご出席いただきました。

表彰式は、全労済東京推進本部の高須則幸本部長の挨拶で始まり、その後、入賞者一人一人に表彰状が手渡されました。受賞者の皆さんは緊張しながらも、堂々と表彰状を受け取っていました。

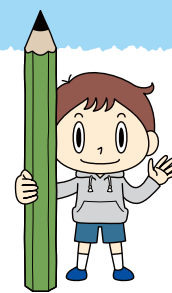
続いて、作文の部入賞者を代表して、東京都のコンクールで金賞を受賞された皆さんの中から東京学芸大学附属世田谷小学校一年生の井上ミモザさんによる代表朗読が行われました。井上さんは、一年生ながらも落ちついて作文を読み上げ、会場は大きな拍手に包まれました。

最後に、作文の審査を担当された松江宜彦先生と版画の審査を担当された田中明美先生にそれぞれの講評をいただき、作文や作品で自分の気持ちを素直に表現することのすばらしさ、大切さについてお話いただきました。

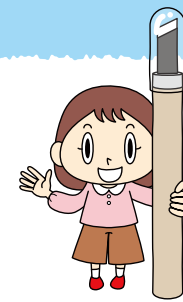
閉会後、作文・版画の部門ごとに記念撮影を行いました。全労済公式キャラクター「ピットくん」も登場し、緊張もほぐれたのか喜びいっぱいの笑顔があふれた撮影となりました。

なお、東京・四谷三丁目の「CCAアートプラザ ランプ坂ギャラリー」にて、二月十日から二月十九日まで金賞・銀賞・銅賞の作品の展示会を開催し、多くの方々に受賞作品をご覧いただきました。

喜びと笑顔に満ちた表彰式



はじめに



小学生作品コンクールは、1973年度の第1回開催以来、今年度で45回目（45年度目）を迎えることができました。今回は、作文447点、版画1,419点、合計1,866点の素晴らしい作品をお寄せいただきました。当コンクールに向けて、一生懸命作文を書き版画を作り、応募してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

今回の作文のテーマは「つづけていきたいこと」でしたが、今回のテーマをきっかけに、今まで続けていたことやこれからも続けていきたいことなど、たくさんの思いにあふれた作品を寄せていただきました。

版画は今年度も「自由課題」でした。今年の干支の犬をはじめ、馬、うさぎなどの動物、想像上の風景や不思議な建物などの独創性にあふれた作品がたくさん集まり、昨年より400点以上も多くのご応募をいただきました。また、紙版画や木版画、単色の作品や多色の作品など、素材や色を上手に使い、さまざまな技法で制作いただきました。

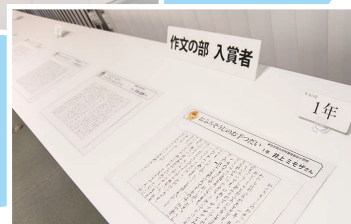
本来は皆さんからご応募いただいた作文・版画の作品のすべてを紹介したいところですが、紙面の都合上、作文・版画の金賞・銀賞に輝いた32点のみのご紹介としています。ご容赦ください。

最後になりますが、ご審査いただいた先生方をはじめ、ご後援いただいた東京都教育委員会、応募にあたりご指導とりまとめをいただいた先生方、そのほかご協力いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。

全労済東京推進本部



表彰式の会場に
受賞作品を展示しました。



作文の部を代表して受賞作品を朗読しました。



少し緊張気味の受賞者の皆さん。



審査員の先生方に講評をして
いただきました。

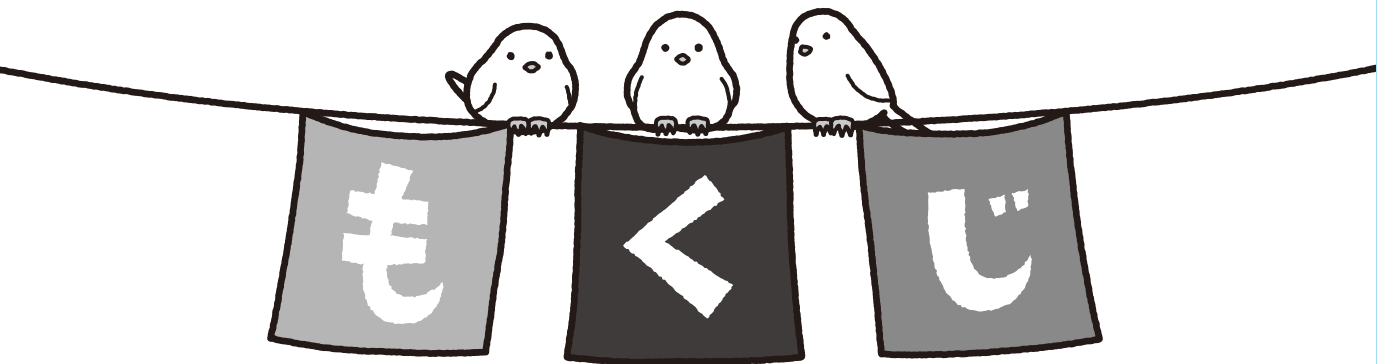


表彰式の様子



受賞者の皆さん





応募いただいた学校と作品数	63
応募作品数・学校数	64

版画の部	コンクール入賞者	48
●金賞作品		50
●銀賞作品		56
●版画の審査を終えて		62

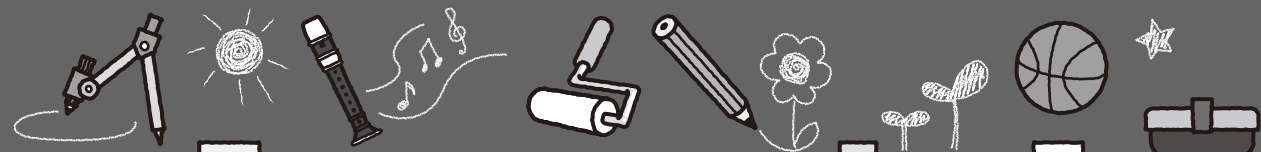
作文の部	コンクール入賞者	8
●金賞作品		10
●銀賞作品		25
●作文の審査を終えて		47

作文の部 受賞者の皆さん



版画の部 受賞者の皆さん





コンクール入賞者

銅賞

銀賞

金賞

つづけていきたいこと	江東区立第四砂町小学校 (1年)	角田 湊奈さん
えがおになるまほうのあいさつ	足立区立千寿小学校 (2年)	関 日衣菜さん
できるようになったとびばい	国分寺市立第五小学校 (2年)	貴村 美智子さん
つづけていきたいこと	目黒星美学園小学校 (2年)	草薙 深央さん
はずかしがらずに手をあげる事	国分寺市立第五小学校 (3年)	開発 凜乃さん
絶対に諦めたくないこと	聖徳学園小学校 (3年)	壽恵村 尚さん
助ける勇氣	墨田区立両国小学校 (3年)	初山 大空さん
つづけていきたいこと	目黒星美学園小学校 (3年)	茨田 侑奈さん
ヒマワリの笑顔	光塩女子学院初等科 (4年)	高橋 位璃さん
目覚し時計	国分寺市立第五小学校 (4年)	坂野 果子さん
あきらめない力	国分寺市立第五小学校 (4年)	藤井 美和さん
だからがんばる	台東区立谷中小学校 (4年)	中山 志輝さん
あきらめない	東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部 (4年)	齋藤 瑛一郎さん
多摩川を愛する	大田区立矢口西小学校 (5年)	市澤 莓子さん
ぼくの気持ち	国分寺市立第五小学校 (5年)	大川 雅由さん
世界のだれもが平等に	国分寺市立第五小学校 (5年)	原 澄花さん
信頼関係	品川区立伊藤学園 (5年)	長尾 美早紀さん
つづけていきたいこと	光塩女子学院初等科 (6年)	中島 唯さん
本は人生の地図	品川区立御殿山小学校 (6年)	高須 悠輔さん
夢の大切さ	東京都立鹿本学園 肢体不自由教育部門小学部 (6年)	稲宮 弓月さん
生きたい	目黒星美学園小学校 (6年)	佐藤 稟桜さん

おふろそうじのお手つだい	東京学芸大学附属世田谷小学校 (1年)	井上 ミモザさん
もも色の気持ち	成蹊小学校 (3年)	小林 珠梨さん
ぼくは野球が大好きだ	東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部 (4年)	佐々木 槇之介さん
神様からのおくり物の中身	光塩女子学院初等科 (5年)	佐伯 理奈さん
恐れずに支えあう	練馬区立泉新小学校 (6年)	保科 さくらさん
つづけているからつづけたいおふろそうじ	練馬区立立野小学校 (1年)	河本 遥香さん
わたしのつづけたいこと	目黒星美学園小学校 (1年)	大河内 もあさん
わたしの大きなモルモット	光塩女子学院初等科 (2年)	菊池 日々希さん
地きゆうをすくうために	光塩女子学院初等科 (2年)	御園生 なぎさん
大好きなピアノ	光塩女子学院初等科 (3年)	鮫島 麻里菜さん
つづけていきたいこと	光塩女子学院初等科 (3年)	城間 咲来さん
パパ、勝負しよう。	東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部 (4年)	川村 斗真さん
だれかのために	光塩女子学院初等科 (5年)	山口 瑠花さん
「あたりまえ」の尊さ	中野区立白桜小学校 (5年)	江口 瑛士郎さん
ピアノとの絆	練馬区立泉新小学校 (6年)	青木 ひよりさん
つづけていきたいこと	足立区立東洲江小学校 (1年)	樋口 文音さん
ぼくのつづけていきたいこと	大田区立山王小学校 (1年)	平林 幹大さん
つづけていきたいこと	光塩女子学院初等科 (1年)	岡 海英さん
まほうのかたもみ	光塩女子学院初等科 (1年)	中村 翠さん



金賞

おふろそうじのお手つだい

東京学芸大学附属世田谷小学校（1年）

井上 ミモザさん

おふろそうじのお手つだい

一年 井上 ミモザ

わたしはおふろが大好きです。

おとうさんとおふろに入るときは、かみのけをぐしあらうのでシャンプーが目に入っていたいです。けれど、ザブザブなみをたてておふろにつかると、うみにでかけたようなくべつな気持ちになります。

一日のできごとや、おいしかったきゅうしよくのはなしをおふろでするのは、おかあさんです。たのしかったことをおもいだして、二人でわらいあいます。

一人が入ってもたのしいのがおふろです。水ふうせんをながてもしかられないし、おまつりのように、スーパースクールいもでぎます。あつい日はあせがながれて、さむいときにはからだがあたたまって気持ちがいーうです。

ある日、おとうさんが「なにかおてつだいをきめようか。」

いいました。それでわたしは、大好きなおふろをそうじすることにきめました。

はじめておふろそうじをした日は、おとうさんにそうじのしかたをおしえてもらいました。はじめに、よくそうじその上のかべに水をかけます。つぎに、スプレーせんざいをぶきつけます。ブラシでよくそうじのよごれをとしたあとに、水でながします。さいごに、よごれがおちたのかくにんしたら、おふろそうじはかんりようです。

おふろそうじをはじめたばかりのころは、しっばいをたく山しました。シャワーの水をあたまからかぶってびしょぬれになったり、スプレーせんざいをつけすぎてあわがなくなかとなかったこともありました。しっばいをしたり、水がつめたいとかんじたこともあったけれど、おふろそうじをやめようとは思いませんでした。なぜなら、かぞくがともよろこんでくれたからです。

一人でおふろそうじをした日、おかあさん

は、

「ミモザちゃん、えらいね。ありがとう。おかげでおゆうしよくのしたくがはかどったよ」と、ほめてくれました。そのよる一しよにおふろに入ったときには、

「ああ、ミモザちゃんがあらってくれたおふろに入るのは、気持ちいいねえ。一日のつかれがふきとぶよ。」

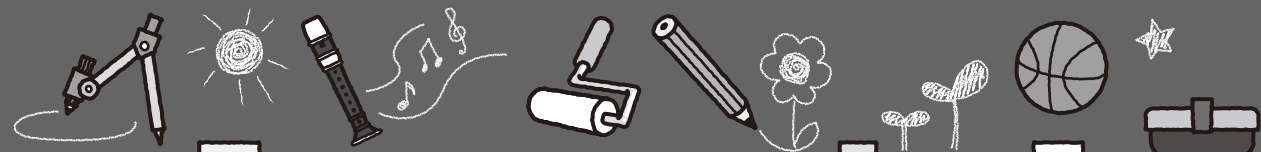
といって、わらいました。わたしもにっこりえがおになって、おふろそうじのお手つだいを

をはじめてよかったとおもいました。おとうさんは、まい日お手つだいをがんばれることをよろこんでくれています。お手つだいははじめて、わたしは気づいたことあります。おふろは、たのしくあそぶだけではなく、からだやこころをきれいにするばしよだということです。そして、かぞくのためにはたらくことの大切さです。わたしは、ますますおふろそうじのお手つだいが好きになりました。おふろそうじのお手つだいははじめたなっ

は、よくそうじをお水であらっていました。けれど、きせつがすすんであきになるころには水のつめたさがかんじられるようになりました。ふゆのはじめには、ついに手があかくなり、しっしんがでるようになってしまいました。でも、わたしはまふゆになったいまでもおふろそうじのお手つだいをつづけています。おふろだからできるたのしいあそびができて、かぞくとあたたかいおやにつかってはなしがはります。一日のつかれやからだのよ

ぎれをあらうがして、あたらしい一日をきれいなこころでむかえられるたすけをしてくれるのがおふろです。おそうじをしていないおふろは、よごれがたまってしまう。おふろのためにも、きれいにしておそうじをしてあげないといけないとおもったからです。おふろそうじは、これからもつづけていきたいお手つだいになりました。

おとうさんがプレゼントしてくれたピンクのゴム手ぶくろがわたしのあたらしいあいば



金賞

もも色の気持ち

もも色の気持ち

三年

小林

珠梨

「え、ゾウ見た事ないの？」
私にはゾウを見た事のない九十三才になる
ひいおばあちゃんがいます。
「子供と一緒に動物園に行かなかったの？」
と聞いてみた事がある。
「自分達で会社をやっていたから毎日仕事
が忙しくて、遊びに行く時間なんてなかつた
な。」

成蹊小学校

成蹊小学校

と、言っていた。
ひいおばあちゃんは農家に生まれ、小さい
ころから家のお手伝いをしていたそう。青
春時代は戦争中で、戦争が終わった結婚と
育児に仕事。
何だか少しかわいそうな気がしたが、ひい
おばあちゃん。
「家にたくさん動物がいたし、会社のみんな
とワイワイしながらやる仕事もなかなか楽
しいんだよ。」

うです。おとうさんやおかあさん、わたし、
そしておふろもピカピカでいられるように、
おふろそうじのお手つだいながんばりたいと
おもいます。

選評

一日の終わりに、一人で、ま
たは家族とつかるお風呂。そこ
は、温まりながら体をきれいに
するだけではなく、話をしたり、
お湯で遊んだりできる、井上さ
んにとって特別な場所なのだ
という思いが伝わってくるすてき
な文章です。その特別な場所の
そうじを、数々の失敗や冬の水
の冷たさにくじけず続けたこと
が、お母さんとの会話やくわし
い出来事でつづられた、心に響
く作品です。

成蹊小学校（3年）

小林

珠梨さん

と教えてくれた。
でもや、ぱりゾウは見せてあげたいので、
学校が休みになつたら一緒に動物園に行きた
いと思つていた。
そんなある日の朝、起きたらお母さんがい
なかつた。学校に行くじゃんびをしていると、
青い顔のお母さんが帰つて来た。
「ひいおばあちゃんが家で転んで、足を骨折
して入院しているのは知ってるよね？」
「うん、知ってるよ。」

成蹊小学校

成蹊小学校

「病院でね、ねている時に血をはいてしま
つて、緊急手術になつたの、今は安定したけ
れど、もう年だから……」とお医者さんは
言つてた。
と教えてくれた。その話を聞いている間は、
頭の中が真っ暗やみ。心も真っ暗やみにおし
つぶされそう。
するとお母さんは、私の体をギューとして
「大丈夫、ひいおばあちゃんは強い人だから、
すぐにまた会えるよ。」



と、言ってくれた。それなら少し安心した。
私はお母さんの「ギュー」が大好き。お母さんのあたたかい心がじわじわ私に伝わってくるからだ。やさしさにつつまれた気分になる。
それからしばらくたつた日、学校で私の大好きな友達が泣いていた。どうしたら泣きやんでくれるのか考えたが、かける言葉が見つからない。思い切って
「ギュー」て、だきしめて良い？」
と聞いてみた。友達は

成蹊小学校

成蹊小学校

「いいよ。」
と答えてくれた。
私はだきしめた。「ギュー」と。そして友達の顔を見てみた。すると、もう泣いていなかった。目に涙はまだ少しあったけれど、ニコニコかわいい笑顔を見せてくれた。そればかりか、私を「ギュー」とだきしめてくれた。私の顔も笑顔になって、二人ともとても幸せな気持ちになった。
(困っている人を助けると、自分まで幸せな

気持ちになれるんだなあ。これからほとんどん困っている人を助けるぞ！)
と、改めて思いながら家へ帰った。
家に帰ると、お母さんが私に
「ひいおばあちゃんのお見まいに行けるようになったけれど、行く？」
と聞いてきた。もちろん返事は
「行く！！」
もともと少し認知症だったひいおばあちゃんだが、入院してから進歩してしまつたのか

成蹊小学校

成蹊小学校

私の事が最初わからなかった。何度も何度も自己紹介したら、思い出してくれた。でもすぐに忘れてしまう。ちょっぴりさみしいけれど、ひいおばあちゃん笑顔がたくさん見れたので、私はうれしかった。
「また来るね。」
と私が言うとな
「また来てね。」
と花が咲いたようにほほえんでいた。その今は、退院して施設でくらししている。その

施設は、冬の間は小学生は入れない規則がある。しばらく会えていない。
何をしたらよろこんでくれるのか毎日考えている。
(あつ、そういうえばゾウを見た事がないって言ってたな。今度、写真を見せてあげよう。
今日の空、すんでいてとてもきれいだな。
あ、あの花小さくてかわいいな。そうだ、私が見たすてきな物を写真にとって、春になったら見せてあげよう。)

成蹊小学校

成蹊小学校

困っている人がいたら助ける。すてきな物と思つた物は写真をとって、忘れないうちにメモする。
これが私のつづけていきたい事。
少しの間会えないのはさみしいけれど、会った時のひいおばあちゃん笑顔を見ると、心がぽかぽかも色にそまる。
昔から春は好きだけれど、こんなに待ち遠しく思うのは初めてかもしれない。

選評

「えつ、ゾウを見た事ないの？」
農家に生まれ、戦争や育児と仕事で、家族のために忙しくしてきたおばあちゃんの人柄と小林さんの思いが、書き出しの一言から見事な展開で表現されています。入院を経て、春までは会えない生活を送っているおばあちゃんに対する気持ちが、学校の友達が困っていたエピソードを織り交ぜて構成され、「ぽかぽかも色」の世界が目に浮かぶ作品でした。



金賞

ぼくは野球が大好きだ

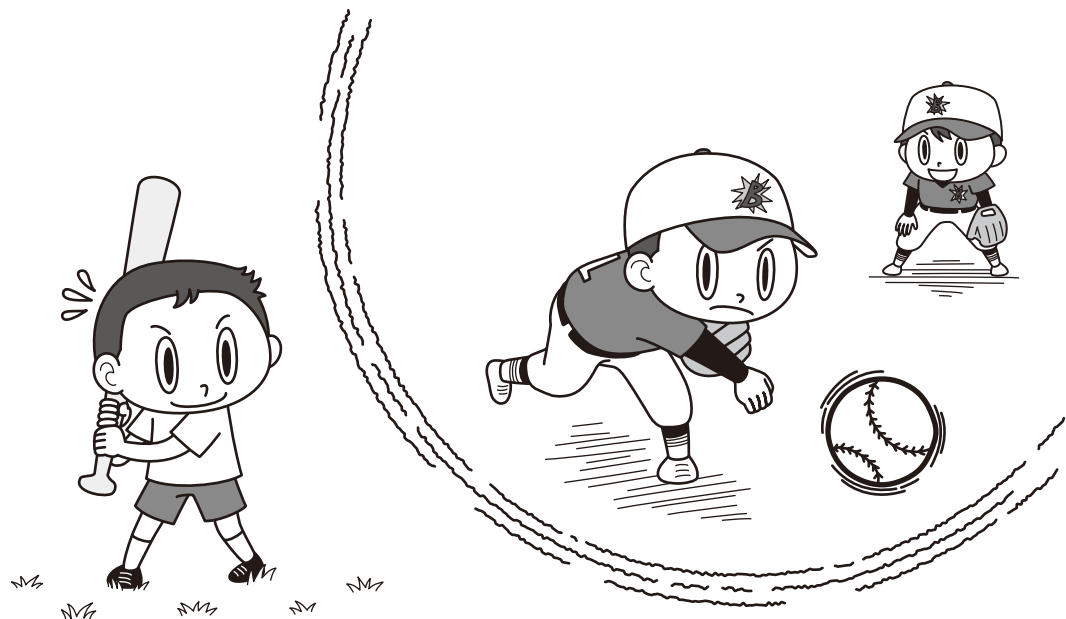
東京都立大塚ろう学校
城東分教室小学部 (4年)

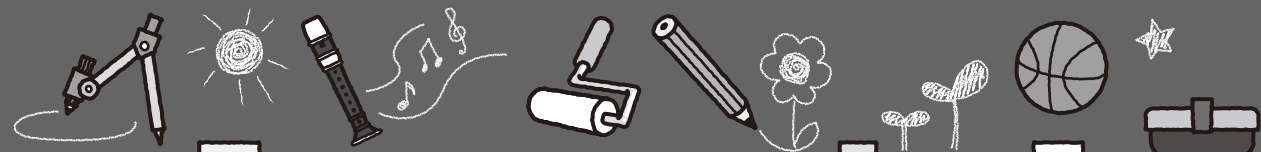
佐々木 慎之介さん

ぼくは野球が大好きだ
佐々木 慎之介
一番目の兄の野球大会の応援に行、た。ぼくはようち部の三年生の時だ、た。
二アウトラナー三塁、カキーン、相手チームの打、た球は兄の守る右中間へ飛んだ。兄はダイビング、みんなが息を飲んだ。すると、砂けおりの中から、ボールをつかんだ兄のグローブが上がった。か、こよかった。その時、ぼくは野球をやりたいた、た。
一年生の秋、二番目の兄と一緒に、越中島ブレイブズという江東区の強豪チームに入団した。かんとかやコーチが優しく、すぐにこのチームが好きになった。上級生も、みんな、しんちやんとかおいか、てくれた。ぼくは少し耳が聞こえないから、母がかんとかやコーチの話をうやうやしくしてくれた。試合後の反省会の時は、コーチの話を母や父がメモしてくれた。

初めて公式戦でフライを取れたことは覚えていない。みんなが拍手してくれたのを覚えている。
今年の五月、練習試合で初めてピッチャーで四番をまかされた。うれしかった。体育で左足をねんざしていたが、
「けがは大丈夫です」
と言、て試合に出て投げ続けた。それで足がは木上がつ、て、治るのに一か月以上かか、てしま、た。練習がで、きなか、たので、試合に出てもエラーをするし、全く打てなくな、た。背番号も7番に落ち、試合に出られな、いこともあ、つた。悔しくて、気持ちもくさくさして、家で練習しなくな、た。それで、母とけんかばかりし、た。
「試合に出られるよう、人数が少、ないチームに帰ろうか」
ある日、母に言われた、ぼくは絶対にいやだと思、た。チームメイトの顔が浮かんで、みんなと一緒に野球をやりたいと思、た。二番

目の兄は六年生の時、優勝して全国大会に行、た。ぼくもこの仲間と全国大会に行きたいと強く思、つた。ぼくは、毎日練習をしようとして、水、金は父と練習をした。
しばらくして、調子が上が、てきた。夏の練習試合で、久しぶりに登板。たくさん三振が取れた。秋には三打数三安打の試合ができた。うれしか、た。背番号も三番に戻、た。
だけど、まだまだここからだ。冬は平日練習がないので、自主練習を始めた。ランニング、坂道ダッシュ、すべりなどで、春までに体を強くし、た。
ぼくの目標は日本ハムファイターズの石井投手。なんちやうでもプロ野球選手になれると教、えてくれた。ぼくもプロ野球選手にな、て、ろうの子やなんちやうの子に、かんばれは、なんでもなれるよと教、えてあげたいと思、っている。
だから、今の目標は六年生の時に全国大会





金賞

神様からのおくり物の中身

光塩女子学院初等科（5年）

佐伯 理奈さん

神様からのおくり物の中身
佐伯 理奈

私が続けていきいたいこと、それは『書くこと』です。

私が『書くこと』に興味を持ったのは、幼稚園のころにお友達からもらった手紙がきっかけでした。私はそのころ、字を読むことも書くこともできませんでした。私が、小さなかわいらしいイラストが入った便せんに並んだ大文字が、なんだかとてもすてきなことが書いてある暗号のように見えてワクワクしたことを覚えています。お母さんに読んでもらい、どうして私も私も手紙をわたしたくて、家にあるたひらがな絵本を見ながらネコのイラストの便せんにお返事を書きました。ひらがなの練習をしたことはなかったし、たくさん音や音も知らなかったのでもちがいのだらけの文だ。たと思うけど、書いたときの満足感と、次の日に手紙を早く届けたくて、手に持ったまま幼稚園に行き、たときのウキウキ気分は今

も思い起こすことができます。

小学校に入學し、一年生の夏休み明けから日記の提出が始まりました。これは宿題の一つなのですが、日記に書く内容は自由なので、私はその日にあったことはもちろん、行事のこと、わが家の愛犬のこと、最近読んだ本のこと、好きなおやつのことやマイブームについてなど、なんでも自分の気持ちのままに楽しく書いています。そして、その日記ノートに提出すると、担任の先生が大きな丸とコメントを書いて返してくださいます。テストみたいなのに丸や三角やバツがあるのではなく、べーじいっばいに大きな丸があることと、先生が感心してくださったり、共感してくださったり、ほめてくださったりするコメントがとてもうれしくて、私は日記を書くのが大好きになりました。

それから、私の学校では『言葉のプレゼント』というものがあります。自分と席が近かったお友達と席替ってはなれてしまうと、

で指番号をつけてマウンドに立って、まっとう練習して、まずはチームのエースになるようにがんばる。ぼくは、ずいぶん野球を続けていく。

ぼくは野球が大好きだ。

選評

躍動感のあるドラマチックな書き出しに、読み手は引き込まれます。しかし、ただのサクセスストーリーではなく、挫折あり、再起あり、山場のある構成になっています。また、自分の状況や両親が支えてくれている様子などもしっかりと書かれています。気持ち素直に表せているので、読みながら応援してしまいう文章です。



きます。心をつないだり大切なことを思い出
 させたりもします。時には、時代や国境を越
 えて私達を感動させたり、勇気づけたりする
 こともあります。自分や誰かの宝物になるこ
 とだってあるのです。
 私が書くものがそんなふうになれたらいい
 なと願いながら、これからも私は書くこと
 を続けていきます。

に、おたがいに向けて書いたメッセー
 かんするのです。私は一人一人の顔を思い浮
 かべ、私が発見したその人の良い所やすてき
 だなと思う所を書いています。以前、わたし
 にお友達から、
 ーとってもううれしいことを書いてくれてあり
 がとう。ずっと大切にしているね。
 と言ってもらったことがあります。私が書い
 たものが人を喜ばせたり、笑顔にさせたりす
 ることができたなんておどろき、そして、相
 手に私の気持ちが伝わったことがうれしくて
 心がボカボカ温かくなりました。
 だれかに読んでもらえる楽しみも知り、私
 は書くことに夢中になっていきました。
 作文や手紙もたくさん書くようになりました。
 そして、文章を書くことで自分の頭の中を整
 理すること、多くの人に考えを知らせること
 相手に気持ちを伝えることを経験してきまし
 た。文章が持つパワーってすごいです！だか
 ら、もっともっとそのパワーを使えるように

なりにいます。
 小さいころ私が大好きだった絵本に、神様
 は生まれていく赤ちゃん一人一人におくり物
 をくださって、そのおくり物の箱をだっとし
 て生まれてくるというお話がありました。私
 は今もその絵本を思い出し、自分はどうな
 くり物を持って生まれてきたのかな、とたま
 に考えます。私は決して優等生ではないし、
 運動だって得意じゃないし、歌や楽器が上手
 なわけでもないし、みんなを引っ張っていく
 リーダーシップも持っていません。そう考え
 ると、思わず、
 ーあ、あ、もしかして私の箱の中は空だった
 のかな・・・
 なんて思ってしまうこともあります。
 でも、もしかしたら、私が持っていたおくり
 物の箱の中には紙と鉛筆が入っていたのか
 もしれませんが。
 物語も手紙も日記も作文も、書いたものは
 ずっと残り、何度も何度も読み返すことがで

選評

幼稚園、小学校と「文章がも
 つパワーってすごい」と思える
 エピソードが続き、神様からの
 贈り物に続けていくという構成
 はとても素晴らしいです。神様
 からの贈り物が『紙と鉛筆』と
 考えている佐伯さんの感性は素
 敵ですね。これからも多くの文
 章を書き続け、人に感動や勇気
 を与えられる人になってくださ
 い。



金賞

恐れずに支えあう

恐れずに支えあう

「自分はみんなとちがう。」

私は、生まれつき多汗症という症状を持つ。いている・多汗症とはずの通り他人より汗が多。いという症状だ。私は特に手汗が多い。幼。いころは気にしてもいなか。たが、5年生ぐ。らいになるにつく手の事が気にな。てきて。いた。だから友達とふれないようにしたり、手をかくしたりした。そしてなるべく自分か。多汗症たという事をかくして。いた。

しかし5年生の運動会できは戦をやる。と知。つて私はこわくな。った。きは戦では友達と手。をつなかなければいけ。ない。もし手汗のせ。いでいやかられたり、さ。らわれたりしたらど。う。しようと思。うと体かふるえた。それだけはい。やだ。た。だから私は心に決めた。一私、多。汗症で手汗かひ。く。て手ぬれ。ちゃうかもし。れない。とし。かり言。おう。

きは戦の練習で、私は勇気を出して言。た。

い。し。に。さ。は。を。組。む。人。の。中。で。人。は。う。だ。い。じ。う。ぶ。だ。よ。気。に。し。な。い。で。よ。う。言。う。て。手。も。つ。な。い。で。く。れ。た。で。も。人。の。手。は。な。か。な。か。手。も。つ。な。い。で。く。れ。な。か。た。私。は。多。く。シ。ョ。ッ。ク。で。頭。か。真。白。に。な。た。私。だ。て。こ。ん。な。症。状。に。な。ん。て。な。り。た。く。な。か。た。の。に。自。分。の。中。で。な。に。か。か。く。ず。れ。て。い。た。私。の。よ。う。に。世。界。中。で。は。人。と。少。し。ち。が。う。て。い。る。人。た。ち。か。た。く。さ。ん。い。る。そ。の。中。で。障。害。の。あ。る。人。も。い。る。お。ん。な。そ。う。な。り。た。く。て。生。ま。れ。て。き。た。ん。じ。や。な。い。出。来。れ。ば。そ。ん。な。ふ。う。に。生。ま。れ。て。き。た。く。な。か。た。それ。は。全。員。か。思。て。い。る。こ。と。け。れ。ど。こ。の。事。実。を。受。け。と。め。な。け。れ。ば。い。け。な。い。私。は。お。ん。な。よ。り。手。汗。か。ひ。い。け。ど。お。ん。な。に。理。解。し。て。も。ら。て。お。ん。な。と。同。じ。よ。う。に。あ。つ。か。て。ほ。し。い。私。の。中。に。は。こ。の。思。い。か。あ。た。

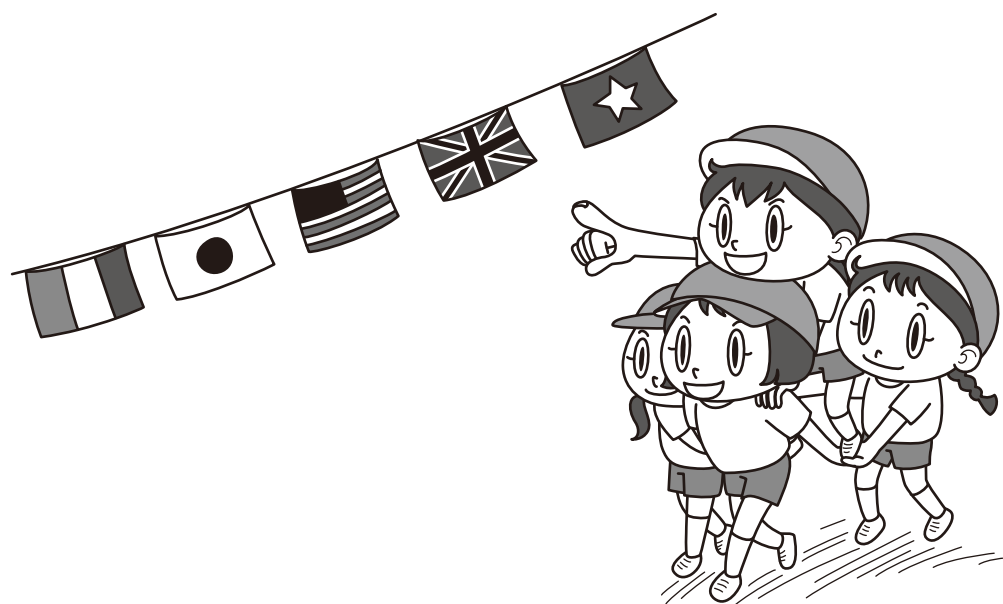
今年も向かえた運動会のきは戦。私は去年の事もさ。か。け。に。お。母。さ。ん。に。手。汗。用。の。手。ぶ。く。ろ。を。買。っ。て。も。ら。た。それ。を。つ。け。て。きは戦。

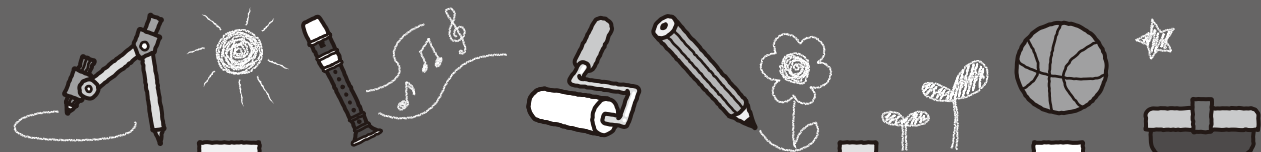
練馬区立泉新小学校（6年）

保科 ほしな

さくらさん

の練習へ向か。た。今年の子人は去年の子人。とはちかう人達。た。た。私は去年のよう。に。し。かりと話。そうと思。た。け。れ。ど。こ。の。感。情。を。止。め。る。自。分。か。い。た。ま。た。い。や。か。ら。れ。る。か。も。よ。い。自。分。の。中。の。悪。者。か。言。た。気。か。し。た。け。れ。ど。私。は。さ。と。理。解。し。て。く。れ。る。よ。う。に。こ。と。も。信。じ。て。力。を。ふ。り。し。ほ。り。言。た。す。る。と。こ。人。は。そ。ん。な。の。全。然。た。い。い。よ。う。ぶ。た。よ。う。と。言。て。は。け。ま。し。て。く。れ。た。の。だ。私。の。気。持。ち。が。い。さ。に。明。る。く。な。た。それ。だ。け。で。は。な。い。手。に。砂。を。つ。け。た。ら。す。へ。ら。な。い。か。も。よ。い。と。対。処。法。ま。で。考。え。て。く。れ。た。私。は。と。て。も。う。れ。し。か。た。多。汗。症。の。大。変。さ。も。理。解。し。て。く。れ。た。そ。の。子。は。私。の。欠。点。と。も。い。え。る。多。汗。症。を。っ。それ。か。私。と。し。て。見。て。く。れ。た。の。だ。人。に。は。必。ず。欠。点。レ。か。あ。る。私。も。人。の。欠。点。を。支。え。ら。れ。る。よ。う。に。な。り。た。い。と思。っ。た。私。の。よう。に。自。分。の。欠。点。で。気。持。ち。か。暗。く。な。て。い。る。





銀賞

つづけているから つづけたいおふろそうじ

つづけているからつづけたいおふろそうじ
わたしは、おふろそうじをつづけています。
いす。わたしは、おふろそうじをきょねん
のなつから、ずっとつづけています。
はじめたきょかけは、おうちの人のお手つ
だいになつ休みのしゅくだいに出たときに、
おふろそうじをえらんでやったことがはいま
りです。
— どうしておふろそうじをえらんだかとい
うと、「なにをしたらいい。」と、おかあさんに
そうだんをしたとき、おかあさんが「おふろ
そうじだとたすかるよ。」といつたからです。
それをきいたときは、「かんだんだな。」と、
おもったけれど、やってみると、けっこうむ
ずかしかったです。
— おふろそうじは、つぎのようにやります。
まず、くつ下をぬいで、ズボンのすそをす
こし上げます。水でぬれないようにするため
です。つぎに、水をおふろのかべにかけます。

おひげがなく、水をつかうのは、おかあさ
んが「おそうじのときは、水をつかてい
いからです。水はまよのところにかからな
いようにちをつけます。かびがはえないよ
うにするためです。つぎに、せんざいをかけ
ます。おふろのかべに六かしかけます。せん
ざいは、かけすぎないようにします。そして
しばらくおいておきます。そのあいだに、せ
んざいをかたづけれます。つぎに、スポンジを
もって、こすりえます。よごれてざらざらのと
ころをたいじゅうをかけて、しっかりとこす
ります。すると、つるつるになります。下の
ほうは、とどかないので、中にはいってしっ
かりこすりえます。さいごに、シャワーで水を
かけて、あわをしっかりとります。しっかり
とらないと、せんざいのぬるぬるがのこつて
おふろのおゆにまぎってしまふからです。
— おふろそうじをすると、おふろがつるつる
になるので、うれしくなります。また、かぞ
くからたまに「ありがとう。」とか「はるかの

練馬区立立野小学校（１年）

河本 遥香さん

選評

思春期の心模様を躊躇するこ
となく書き綴られている保科さ
ん。五年生・六年生の騎馬戦を
通して、多汗症という「人とは
少し違っている部分」を克服し
ていく姿を臨場感あふれる心情
表現で書き上げています。構成
も「過去」「現在」「未来」と単
純ですが、この作品の心情変化
を理解する上ではとても分かり
やすい書き方です。



銀賞

わたしのつづけたいこと

[illegible]

目黒星美学園作文用紙（三・四・五・六年）

さかあります。そのため、こくごのテストの
てんすうがよくないときかあります。にかて
のこくごをこくふくするため、たくさん本
をよみました。おもいます。本をたくさんお
こで、たくさんのおこはをしり、りかいする
ことで、こくごのおべんきょうにつなげていき
たいとおもいます。また、こくごのきょうか
しよノートにうつすべんきょうをはじめまし
た。まい日、つづけていくことで、つかにな
かるとわたしは、しんじています。

るから いやではありません。
おかあさんが、こんどぼうがついたスポン
ジをかってくれるそうです。これでおふろの
下のほうがりやすくなるので、たのしみで
す。

わたしは、なつからおふろそうじをつづけ
ています。いままでもつづけてきたので、二
ねんせいになつても、おふろそうじをずう
とつづけていきます。

[illegible]

つづいてはなします。		
わたしは、いまいようばをなつています。		
まだなら、二かけつですか、もうか、あ		
ります。それは、じょうはのライセンスキー		
うをとることです。なん年もかかるかもしれ		
ません。あきらめずにかんばりたいとおもひ		
ます。おうまさんについてるとき、まわり		
のけしきがよく、はしつているときは、とて		
も気もちよいです。おうまさんとは、とて		
つにすることでしんろいかんけいか生まれ、		

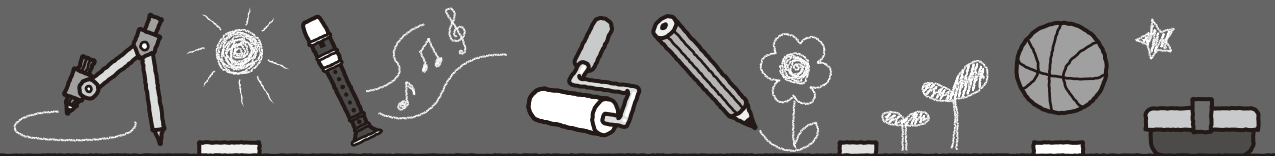
目黒星美学園作文用紙(三・四・五・六年)

たすけあうことではやさしさかあふれるよの中	さしのべたいとおもいます。	もしこまゝにいる人かいたらわたしは、手を	わたしじしんもころかりたかになります。	かゝ生 <small>なま</small> まれるとおもいます。	人にやさしくすることです。たくさんのおかあ	さいごに、三ばんについてはなしをします。	うはをかかんばをかかんば。ていします。	わたしは、おろまんか大すきだから、じよ	もゝとうまくいよ。うはかてきます。
-----------------------	---------------	----------------------	---------------------	----------------------------------	-----------------------	----------------------	---------------------	---------------------	-------------------

目黒星美学園小学校（1年）

大河内

もあさん



銀賞

わたしの大きなモルモット

光塩女子学院初等科（2年）

菊池

日々希さん

わたしの大きなモルモット

きくち ひびき

わたしのつづけていきたいことは、モルモットのお世話です。はじめたまっかけは、学校の園足でいのがしうどうぶつ園に行、たときモルモットをた、こしたことです。その時、とても気持ちよくてかわいかったので、かいたくなりました。家に帰ってお母さんに、「モルモットをかいたいいけいい？」と聞いたら、すぐには「いいよ」とはいってくれませんでした。なぜならモルモットのことを何も知らず、かうとしないでしまつかもしれないからです。モルモットのことをしらべのために、わたしは図書室でモルモットの本をかりて大切なことをノートにまとめました。そしてお父さんにまとめのノートを見せたら、なんと、

「かってもいいよ。」

といってくれました。その時は、とてもうれしかったです。

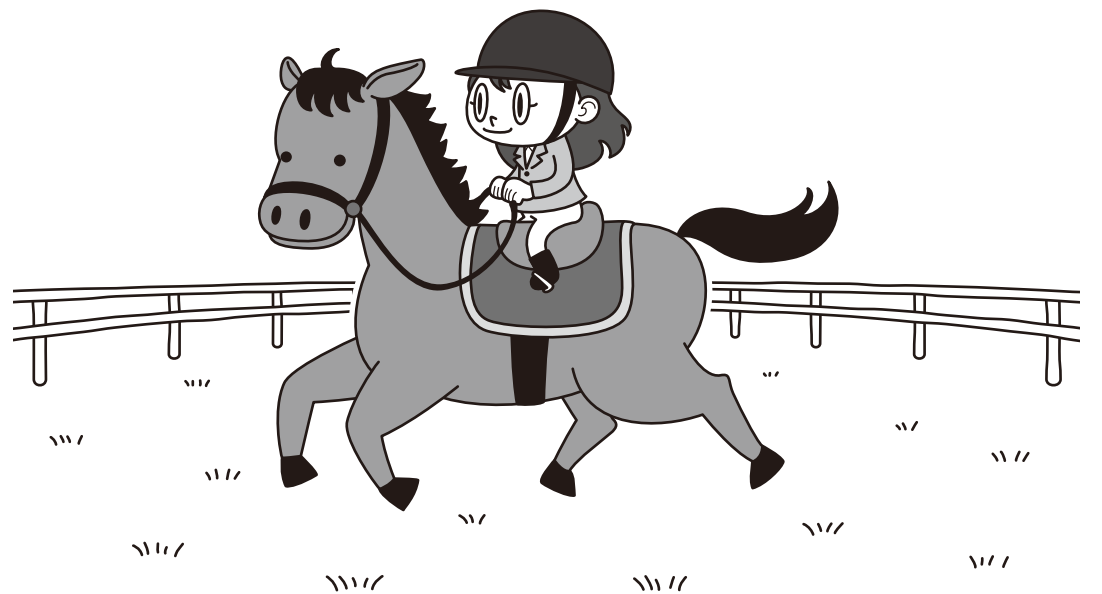
そしてわたしは、お父さんとい、しよにペットショップにいきました。そこには、モルモットがひびきいました。その中でつむじがたくさんある子と黒と白の毛のながい子を見つけた、この2ひきをからことに決めました。も前は、黒と白の子は「丸」にしました。つむじのいっばいの子は「玉」にしました。

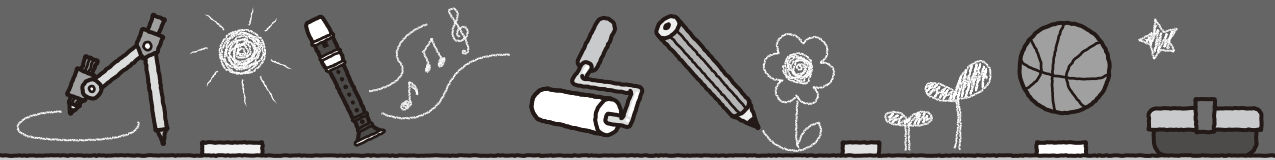
わたしがモルモットのお母さんになり、まい日お世わをしています。お世わは1日2回します。朝は今までよりも早くおき水をかえ、ケージの中のそうじをします。そして新しいやさいとほし草をいれます。学校からかえたら朝のおせわにくわえトイレのそうじをします。お世わはめんどうだと思つともあるけれど、わたしにはお母としてこの子たちをそだてるせきがあります。お世わをするときモルモットがよろこぶので、そのよう子を見るこわたしもうれしくなります。

モルモットが家にきてから8ヶ月がたち、2ひきのモルモットはわたしになつき大きく

になつてほしいとぬかっています。小さなこ
とですがよりよくしつづけることが大じだ
おもいます。

目黒星美学園作文用紙（三・四・五・六年）





銀賞

地きゆうをすくうために

[illegible]

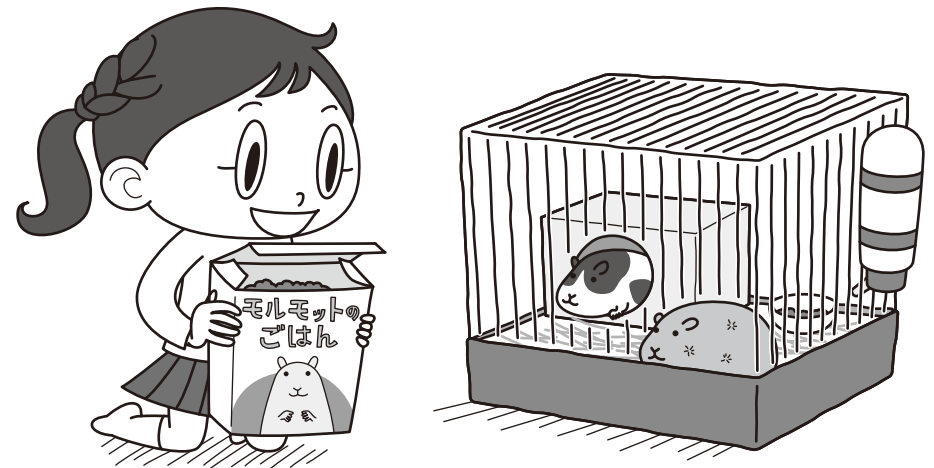
せいちょうしています。わたしのモルモットは、まほうがかえると思います。なぜなら見るだけで人をしめわせな気分にしてくれるからです。このすてきなまほうつかいたちがいつまでも元気でいてくれるように、わたしはモルモットのお世話を一生けんめいつづけていきたいです。

[illegible]

光塩女子学院初等科（2年）

御園生 みそのう

なぎささん





銀賞

大好きなピアノ

口 大好きなピアノ

光塩女子学院初等科三年 鮫島 麻里菜

「一度始めた事はどんなに大変でも続けていくのよ。」

これが、私とお母さんとの習い事のおやくそくです。私が幼稚園の時に、お姉ちゃんにピアノをひいている事がうやましくて、私はいつも、

「まりもピアノをやりたい！習いたい！」と言っていました。まわりのお友達には、バレエやプール、体そうなどを習っていると言

っていたし、私も何かやりたかったからです。でも、お母さんは、

「まだまりはムリよ、小学生になったらね。」と言、てやらせてくれませんでした。

「どうしてだめなの？こんなにやりたいと思っっているのに。ぜ、対に、小学生になったらピアノをやる！」

私はドレミファソ、とピアノにさわりながら、どんな気持ちをもふくらませていきまし

ミをへらすことです。ぐ休ときには、買い物
の時にかならずエコバッグを持しました。ソ、
ティッシュペーパーをつかうかわりに、ふるふ
きんやぞうきんをつかうようにしました。こ
れは、かなりゴミをへらすのに役立ちました。
ゴミをもやすりようが少しでもへれば、もや
す時にニさん他たんそもへると思います。
三ばん目にはじめたことは、つかわないうへ
やの電気はすぐいけすことです。これは、当た
り前のことなのですが、私は前はけしわすれ
てしまうことが多く、よく
「早く電気をけしなさい」
と、しかられていました。しかし、「地きゅ
うをすくう」という目ひようを立ててからは
自分からすぐいけすようになったと思います。
私がこうしたことをつづけて、もう二年い
上たちますが、気がついたことがあります。
それは、「地きゅうをすくう」ということは
バがあらは、だれでも出来るということだ
そして、みのまわりがきれいになると心がき

れいになると心がきれいになるように、地き
うがきれいになれば、私たちもすみやす
なり、バもおだやかになるのではないでしょ
うか。
私は今、小学二年生です。大人になったら、
「地きゅうをすくう」ことをつづけていき
います。地きゅうの人全員がすみやすいせ
いにするために、そして安全なせかいを作る
ために。

光塩女子学院初等科（3年）

鮫島

麻里菜さん

た。毎日やりたい気持ちがあふれていきまし
た。

年長の十一月。お母さんから、

「まりもそろそろピアノをやってみる？」と聞かれた時、私はびよんぴよん飛び跳ねて

しました。「うん！毎日ちゃんと練習する！ぜ、対に！」

「やくそくする！」と言った時のことは、今でも忘れられません

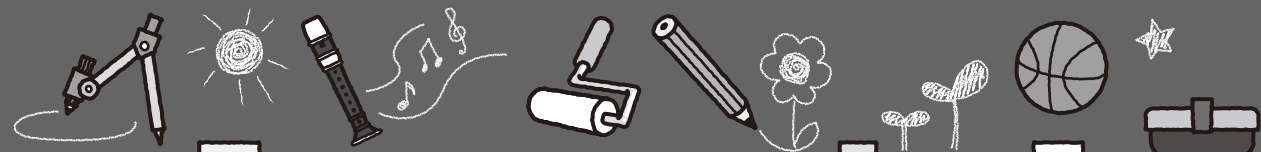
「お姉ちゃんみたいに上手にひけるようにな

りたい。出来るもん！」という自信もありました。

毎日ピアノに向かうと、お母さんやお姉ちゃん

「まり、すごいね。もっといい音が出るといいね。」

とほめてはげましてくれていたのに、私はな
んだか心が暗くなってしまうました。出そう
と思う音が出ないのです。頭で考えている音
と、じっさいに出てくる音がちがうのです。



「全然ひけない。リズムもうまくいかないし音も全然よくない。上手に出来ない！もうやりたくない。」

「なみだがポロポロと流れました。お母さんは「そう。じゃあやめる？やらなくていいよ。でも、本当に今やめるのか、ちゃんと決めてからにしないね。」

「と言いました。でもお姉ちゃんが、最初から出来る人はだれもいないよ。たくさん練習したから、せれだって指が動くようになったんだよ。最初からひけたら習わなくていいじゃん。いいの？今やめて。」

「と言ってくれました。なみだがますます出てきてしまいました。ミヤめたくない！」

「お姉ちゃん、教えて。」

「とお願ひしました。指はまるくすること、せいはいしくすること、よく聞くこと。一つ一つ、教えてもらったことをやってみたら、「あら？今、とってもひびいているよ。」

「とほめてくれました。そうなのです。き本を

「全然ひけない。リズムもうまくいかないし音も全然よくない。上手に出来ない！もうやりたくない。」

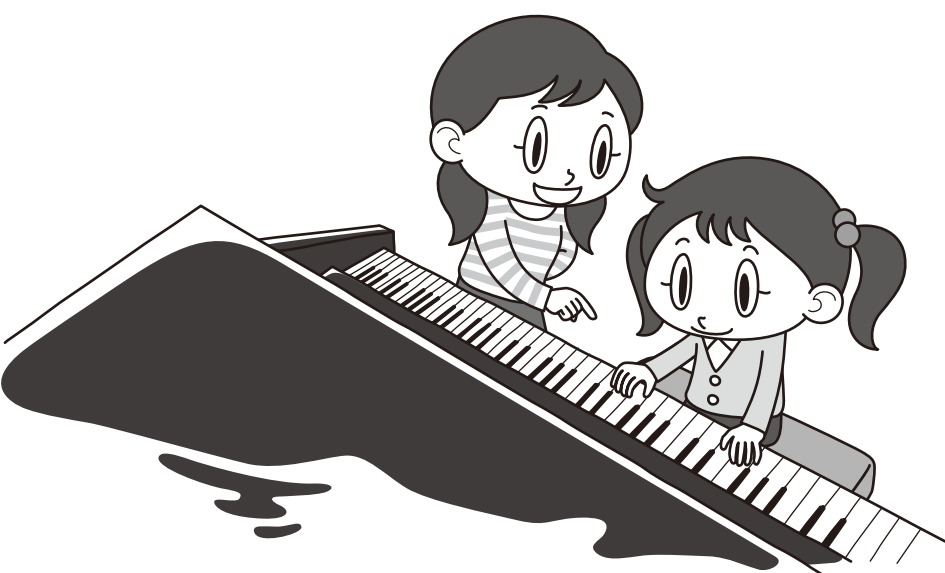
「なみだがポロポロと流れました。お母さんは「そう。じゃあやめる？やらなくていいよ。でも、本当に今やめるのか、ちゃんと決めてからにしないね。」

「と言いました。でもお姉ちゃんが、最初から出来る人はだれもいないよ。たくさん練習したから、せれだって指が動くようになったんだよ。最初からひけたら習わなくていいじゃん。いいの？今やめて。」

「と言ってくれました。なみだがますます出てきてしまいました。ミヤめたくない！」

「お姉ちゃん、教えて。」

「とお願ひしました。指はまるくすること、せいはいしくすること、よく聞くこと。一つ一つ、教えてもらったことをやってみたら、



「きちんとやって、心を込めてひくと、良い音が出るのです。」

「これを毎日やるのはとても大変だけど、こういういい音が出るとうれしくなるでしょう？まり、ピアノ好きでしょ？だ、たらつづけていこうよ。」

「とはげましてくれたのです。」

「私は、つづけていくことは大変なことたくさんあるけれど、やっぱり大切なことだと思います。そして、は」と気づきました。

「お母さんが、小さい時からやらせてくれたかったのは、本当にやりつづけたい、という気持ちになつてから、と考えていたからなのかもしれない！」

「ということでした。私がやりつづけたいと思わなければ、つづけられないことだからです。それから毎日練習することが、少しずつ楽しくなつていきました。片手練習も、リズム練習もつまらないと思わなくなりました。レッスンの時にも、



銀賞

つづけていきたいこと

光塩女子学院初等科（3年）

城間 咲来さん

「つづけていきたいこと」

城間 咲来

七月二十四日、わたしはぶ道館で、柔道の試合に出場していました。けいさつしたいこの錬成大会です。

朝六時、いつも練習に通っているけいさつしよにつくと、けいさつかんのみなさんが、「今日のし合がんば、てね。」

と、声をかけてくれました。柔道ぎにきがえてじゅんびをすませると、いよいよみんなで

大きなバスに乗りこみ、ぶ道館へ出発しました。

バスの中では、お兄さんやお姉さんたちとおしゃべりしたり、トラップをしたり、とても楽しくてこれからし合をすることもすかりわすれるくらいはしゃいでいました。

「もうすぐ、ぶ道館につくよー！！」

この声を聞いてまどの外を見ると、ものすごい数のせん手たちがバスを下りて、会場の周りを走、たりトリーニングをしているす

がたが見えました。

「どうしよう……」

バスの中の楽しかった時間がウソのように、急にみんなしずかになりました。きつと、お兄さんやお姉さんもきんちようしているんだらうなと思いました。

わたしは、小学校一年生から近くのけいさつしよの道場で、柔道を習い始めました。柔道は、いろんなわざがあつてそれを使い分けることで、自分より大きい相手をたおすこと

ができるので、おもしろいスポーツだと思います。まだ体も小さいし、力もあまりないですが男の子をせお、て一本を取、たりした時は、本当にうれいのです。も、ともつとわざをおぼえて、色々なわざを使、て一本を取りたいと思います。

今年の錬成大会では、先ぼうとして初めて出場しました。去年までは、かんらんせきから下のたたみにむか、ておうえんするだけだったのに、今年は、このぶ道館のたたみに立っ

てし合に出るんだ、と考えると、少しきんちうしていました。

先生から、鬼い、切りやりなさいと言われて、わたしは、元気よく大きな声を出して、こうと思いました。二時間、わたしは一生けん命わざをかけましたが、相手をたおすことはできませんでした。でも、わたしもたおれませんでした。けっかは、引き分け。わたしより学年も上の相手だ、たので少しまんぞくした思いで先生のところに行くと、

「よくがんばった。でも引き分けでよろこんでちゃダメだよ。」

と言われてしまいました。

今年の錬成大会は、よい結果をのこせなかつたけれど、今回けいけんしたドキドキとし合前に一生けん命練習をしていた他のチームのどかを思い出して、来年はぜ、たいにかちた

いと思ひました。
柔道は、わたしにあきらめない心と、小さくてもかてる、というゆう気を教えてくれた

スポーツです。これから、たくさん練習をしてたくさんメダルが取れるようにがんばりたいです。



銀賞

パパ、勝負しよう。

パパ、勝負しよう。

川村 斗真

ぼくのパパはやさしいです。とても強いです。ぼくはパパが大好きです。

パパは家で、毎日、皿洗いをしてくれます。料理も、パスタやれいめんを作ってくれます。おいしいです。宿題がわからないときは、パパが帰ってくるまで、他の宿題を待っています。パパが帰ってきたら、問題を

分かりやすく教えてくれます。ぼくのパパはとってもやさしいです。

でも、し合の時のパパはちがいます。パパはとうとうもんがプロレスラーなのです。

とうとうもんは耳が聞こえない人たちのプロレス団体です。全部で二十人ぐらいいいます。パパはいつも、最後のしあいに出ます。パパのしあいは、デスマッチだからです。けいことうとうもんや画びょうやいすを使って、相手をたおします。デスマッチは、いっくんびやかたず

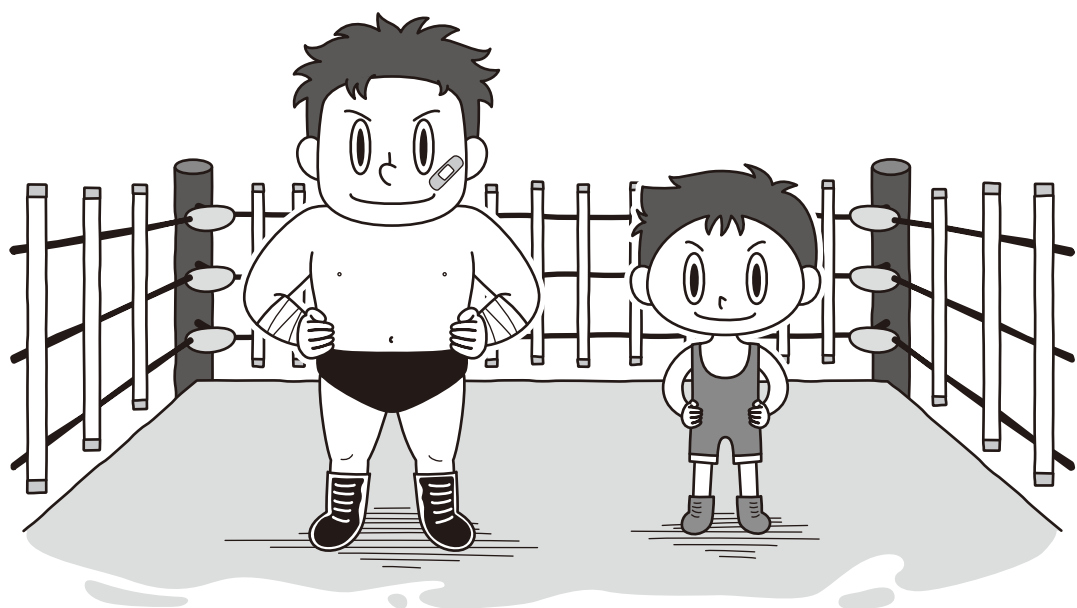
けが大へんです。相手もパパもカラスのはんがささるこ、お客さんがひめいをあげてします。ぼくはパパのしあいを見て、やりすぎ、やばいと思うことがあります。11月のしあいはすごい血が出て、すごくこわかったです。パパが入院するんじゃないかと思いました。

どうしてデスマッチをやるのかとパパに聞きました。すると、お客さんによろこんでもらうためと答えてくれました。パパが会場に入ると、お客さんがいっせいはくをして、大声をあげます。お客さんたちが、ずつと待っていたという顔になります。しあいが始まるとみんなよろこんで、グーグーとこぶしをあげます。みんなパパのファブです。二年前はファブが少なかったけど、今はたくさんになりました。ぼくはとてもうれい

です。パパは毎日練習します。仕事が終わって、夕飯を作るとすぐ出かけます。なかとびやふくおんや練習がいなどをします。土日は、朝

東京都立大塚ろう学校
城東分教室 小学部 (4年)

川村 斗真さん
かわむら とうま





銀賞

だれかのために

光塩女子学院初等科（5年）

山口

瑠花さん

だれかのために
光塩女子学院初等科 五年 山口 瑠花
私の髪の毛はとても細くて長く、クセもありいつもからま、ていました。毎朝きれいにブラシでいてもすぐにからま、てしまっていました。
「どうしてそんなに長いのか？」
と聞かれたり
「大変ではないのか？」
と聞かれていました。ここまでのばすのに約3年かかりました。のばしていた理由はジャパンヘアドネーション＆チャリティ、にきふをしようと思、たからです。その団体は病気で髪の毛がぬけてしま、た子のためにカツラを作、てきふしてくれま、す。短か、たとしても実験に使、たりするそうです。カツラにするためには32センチ以上の長さが必要だそうです。きふをするかみの毛はそめていたり、パームがかか、ていても問題なく、ひ、は、て切れるようなかみの毛は使えないそうです。

多少いたんでいても良いそうです。かききれいなかみの毛の方が良いと思、い、トリートメントを優しくつけてお手入れをかんばりました。
家にはかみの毛がい、はい落ちて、毎日お母さんのそうじは大変そうだし、おふろで頭を洗う時も時間がかかりました。お父さんは「きふをするのは良い事だけど自分が無理を、してまでする必要は今はないと思、うよ。大人にな、てからでも出来る事だし。」
と言、ていました。それを聞いてと中で「やっぱりあきらめて切ろうかな？」と思、た事もありました。
二分の一成入式の時に、十歳の記念に着物を着て髪を結、てもらいました。髪を結、う美容師さんも「長いわね」と驚、いていたので私はきふのためにのばしていることを説明しました。すると
「つやもあ、てきれいな髪を毛。これをきふしたら喜ばれるわね。」
と言、てくれました。それを聞き私はとても

うれしくな、り、またかんはろうと思、いました。そして、や、とこの夏にかみの毛を切りま、した。ヘアドネーションは提携している美容院があり、その一けんが家の近くにあり、たのでそこに行きま、した。きふするために二つ結、びのようにした後インディアンのように中、にも何こか結、び、切、てもらいました。生え、ぎわから計ると50センチ以上あ、た私のかみの毛ですがかた位から計ると35センチでした。量が多いと思、ていたのに案、さ、いに切、ても
「たら意外と少なく、私のかみの毛だけでは作れないんだと思、いました。カツラにするためには20人、30人くらいのかみの毛が必要なのだそうです。」
私やお母さんは「長いわね」と言、られるたびにヘアドネーションのこと説明してま、した。言、うと「えらいわね」と言、われることもありま、した。人にもほめてもらいたく言、ていたわけではなく、まだヘアドネーションを知らない人にも知、てもらいたく言、て

病気でかみの毛が無い人はロンクヘアのカツラを好むそうです。そのためには50センチ必要なのです。次にきふする時は、と多くの人にヘアドネーションを知、てもらいたく思、います。私も50センチきふしてその子の好みにあ、うようにカツラを作、てくれたら良いなと思、います。
学校ではもう一人の友のためのぼ金活動をしていま、すが、今回はもう一人の友のためにかみの毛をきふしました。
「お父さんが
「おこづかいを全部を自分のためにつかうのはなくて、一部は人のために使うんだよ。」
と前に言、ていま、した。いつもぼ金の時におこづかいからお金を出していま、したか、今回ボランティアでできる事は他にもあるのだと分、かりました。
かみの毛を切、た今長い時よりもとても楽、なのはしている間は、大変だ、たなと思、いま、した。切、たら頭はかくなりま、すが一番か、る



銀賞

「あたりまえ」の尊さ

「あたりまえ」の尊い

江口 瑛士郎

朝六時半、公園にラジオの音が鳴り響く。今日もラジオ体操で夏休みの朝が始まった。僕が続けていることはラジオ体操だ。昨年の夏に引越してきて、初めてこの地域の子供会のラジオ体操に参加した。七月の最後の一週間、大人や子供、五十人位集まっていた。はととてもにぎやかで楽しかった。一週間があった。つという間に過ぎてしまった。もちろん、僕と弟、お母さんは皆勤！夏休みがこれからというのに、ラジオ体操が終わってしまうのを残念に思っていた僕に、一人のおじさんが声を掛けてくれた。

ラジオ体操、おじさんたちは毎日やっているから、よかったです。

ここから僕のラジオ体操という朝の習慣が始まった。夏休み、冬休み、春休みだけでなく、学校が休みの週末はなるべく公園へ行っ

くなく、たのは心だと思っています。きふしてたれ
かのためにな、たからです。これからも人の
ためにできることを続けていきたいです。

中野区立白桜小学校（5年）

江口 えぐち

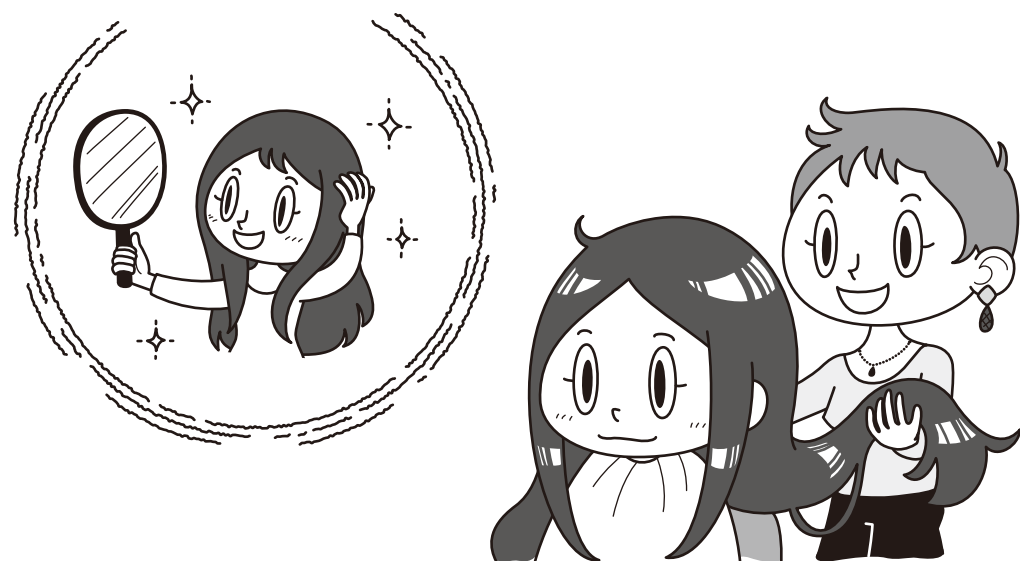
瑛士郎さん

た。小雨が降つてモ、冬の寒い朝も、公園に行くと必ずおじさんたちかいて、「おはよう。」と声を掛けてくれる。子供は、僕と弟の二人だけ。弟がサッカ一の試合で忙しい時は、僕は一人で公園に行く。特に冬の朝は寒くて暗くて、僕もなかなか布団から出られずにいる。冬になると、ラジオ体操に来る人の数が減つて、おじさん二人と僕と弟の四人だけのこと

その中のおじさんの一人は、僕がラジオ体

操に行くとは必ず来ている。休んだのを見たことがない。おじさんは、公園から少し離れた所に住んでいるらしく、毎朝自転車で公園にやってくる。必ずラジオを持ってきてくれる。おじさんは「JAPANESE」と書いてある上着を着ているので僕と弟は、「ジャパンのおじさん」と叫んでいる。六十歳代から七十歳代で、とても元気がいい。

ある日、お母さんが、ありがとうの反対の言葉は「あたりまえ」だと教えてくれた。僕





銀賞

ピアノとの絆

ピアノとの絆

青木 ひより

ふだん、練習の時だけでなく、気分転換をする時にも弾くピアノ。今では友達のように、無くてはならない存在。約七年間続けてきたけれど、ピアノと仲良くなるにはたくさんの時間が必要だった。

私がピアノを習い始めたのは、五才ごろ。始めたき、かけは、姉の影響だ。私には、七才年のはなれた姉がいる。姉も小さいころからピアノを習っていて、色々な曲を弾いていた。そんなピアノを弾く姉の姿に、私はあこがれを抱いた。小さかった私は、姉に「前にや、てたトトロの曲、弾いて。」とお願ひしてみた。すると姉は、たなから楽譜を引、はりだし、スラスラと弾き始めた。他の曲もお願ひすると、どんな曲も弾いてくれた。たくさん人の曲を弾ける姉のようになりたい、そう思、た私は母に、ピアノをやりたいとお願ひした。母は姉が習、ている先生の

うピアノを習、ていて、色々な曲を弾いてい

は、ジャパンのおじさんが毎朝ラジオを持って公園にや、てくるのを当然のことのように思っていた。でも、寒くても、暗くても、小雨が降、ていても、眠くても、体調が悪くても、毎朝必ず公園に来るということは、大変なことだと思、う。ジャパンのおじさんがいないとラジオがないから体操ができないので、責任重大だ。ジャパンのおじさんは本当にすごい。それ以来、僕は毎朝心の中で、「おじさん、今日もありがとう！」と言、ていて。おじさんには、照れくさくて今更言えないけれど、おじさんが大変な時には、僕も何か手伝えることがあるといいなと思、う。

ところが、八月二十九日の朝は違、た。いつまでた、てもラジオ体操が始まらず、おじさんたちは熱心にラジオ放送に耳を傾けてい、る。一人のおじさんが僕たちに、「北朝鮮がミサイルを撃、たから、今日はラジオ体操は中止だよ。」

と教えてくれた。僕の頭の中には「戦争」という、ニュースでしか聞いたことのない言葉が浮かんだ。胸がドキドキして不安になった。もし戦争になったら、いつミサイルが落ちてくるかわからない。たくさんさんの尊い命が奪われることになる。僕の家族、友達、目の前のおじさんたち。公園から帰るとお父さんが、「今のところ、戦争は起きていないから大丈夫だよ。」と教えてくれた。僕はホッとしたが、あたり

まえの日常が、あたりまえではなくなることもある、ということを感じた瞬間だった。最初は健康のために、引、越してきたこの町のことを知るために、なんとなく始めたラジオ体操だった。でも、いつのまにかそれ以上の目的ができていた。おじさんも僕も元気で、このあたりまえの、何気ない朝が続いていくことを願、っている。これからは、あたりまえの事に感謝しながら、ラジオ体操を続けていこうと思、う。

練馬区立泉新小学校（6年）

青木 ひよりさん

ここに、私をつれて行、てくれた。先生には、まだ手が小さいね。」と言われたが、どうしてもピアノを習いたかつた私はこの先生に教えてもらうことになった。

ピアノのレッスン中は、とても楽しかった。チューリップやち、うき、きらきら星など自分が知、ている曲がでてきて、その曲が弾けるようになった。だから、一つの曲が合格する

と、一つシールがもらえる。これが練習をがんば、た時のごほうびだった。先生もていねいに、やさしく教えてくれる。しかし、私は小学二年生の時に、静岡へ引、こしをしなればならなかった。引、こしを理由にピアノをやめなくなかつた私は、新しい先生にピアノを習、た。

ピアノが大好き、という気持ちしかなかったはずの私の心か、ピアノが苦痛と感、じるようになった。たのは、小学校三年生ごろ。弾く曲

作文の審査を終えて

審査員の先生〈敬称略〉
 藤村 由紀子 江東区立東陽小学校主任教諭（東京都小学校国語教育研究会）
 松江 宜彦 中野区立白桜小学校主任教諭（東京都小学校国語教育研究会）

応募された作品はどれも、自分が経験したことや、考えを見つめ直した言葉が綴られていました。題名や情景描写に工夫を凝らしている作品もあれば、心情を素直に表している作品もありました。一人ひとりが表現した世界を追って、楽しく読ませていただきました。低学年の作品には、家庭や学校で過ごしたことから、できるようなったこと、うれしかったことを中心にえがかれている内容が多くありました。素直な表現や、題材にしたものへの思いにあふれていて、書いたみなさんの生活の中にある、すてきな出来事を追体験しながら、思わず笑顔になってしまいました。

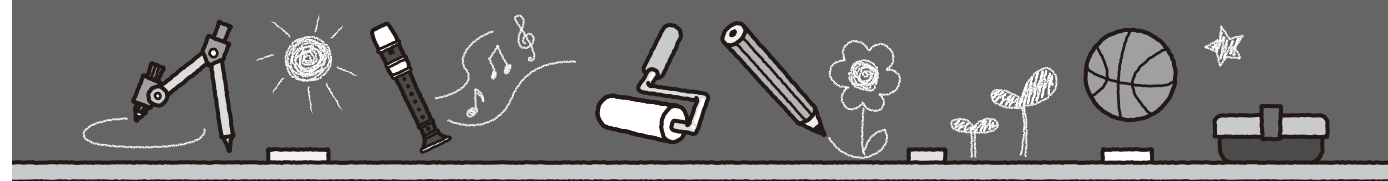
中学年の作品には、学校の友達や習い事のコーチや友達が多く登場しました。できなくて悔しい思い、会えなくなつて寂しい気持ち、それらを乗り越える努力などが丁寧に書かれている作品が多数あり

ました。自分の目標を見付けて、周りの人との関わりの中で手にした思いは、今後みなさんの心に残ると思います。高学年の作品になると、日々の生活を振り返り、自分の心と向き合うものが増えました。これまでは気付かなかつた、周りとの違い、続けたいこととしなければならぬことの間で葛藤し、解決策を探る。また、そうした折にかけられた一言や、ふと見えた周囲の仲間、家族。そうした、日常にきらつと光った思いをこめて、一文、一文と書かれた作品に、心が揺さぶられました。

書くことは、考えること。あふれる思いや、伝えたい事柄があつても、いざ鉛筆やペンを持ち、紙に向かうと、なかなか自分がイメージしていたとおりに表現することは、難しいものです。しかし、今回、「書きたい」という気持ちがあつて書いた文章からは、文の



審査中の藤村由紀子先生（左）、松江宜彦先生（右）



がじんじん難しくなるにつれ、宿題も大変になつてい、たからだ。ピアノ以外にやることもたくさんあり、練習できる時間も短か、た。しかし、次のレッスンまでには仕上げなければならぬ。いつしか、私にと。てピアノは、生活の中で抱える一つの大きななやみとなつていったのだ。

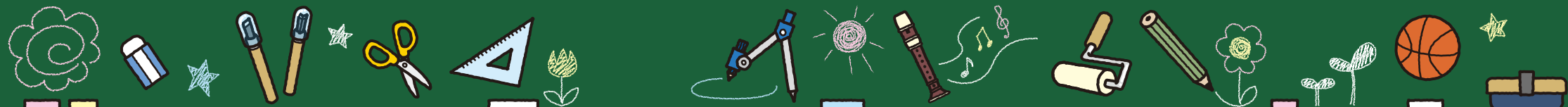
こんな私を変えた大きな出来事があった。それは、一年に一度ある学校行事の一つ、音楽学習会だ。学年で合唱、合奏を全校にひろ

うする。この、合唱の伴奏に私はチャレンジしようと思つた。オーディションまで、多くの時間をピアノにあてた。そして本番、練習通り弾けて合格する自信がついた。そして合格発表。私は伴奏者に選ばれなかつた。この時のくやしさは、今でも覚えてい、るほどだ。

私は、この出来事。日ごろの練習の積み重ねの大事さを痛感した。この日から私は、ピアノに向かう回数が増え、い、んぐん上達し、ピアノのことが心の底から好きになつた。今は、

ピアノを苦痛なんと思ふことはない。また、この成果が実を結んだのか、四年と五年に伴奏者に選ばれた。音楽学習会で伴奏することのできたのだ。

私は、練習の積み重ねはその時つらいと感じても、必ず結果につながつていくということを知つた。小学六年で東京に引、こしたが、もうろんピアノを習、てい、る。今は発表会に向けて、難しい曲をや、てい、る。難しいからこそ練習のやりがいがある。この練習が、発表会本番につながる、という前向きな気持ちで練習にはけんでい、る。これは四年生の私が教へてくれたこと。このことを胸に、私はこれから先も、ピアノを続けていきたいと思ふ。



コンクール入賞者

うみのいきもの	目黒星美学園小学校 (1年)	小俣 結實さん
ナッシーのおやこ	品川区立城南小学校 (2年)	神代 真輝さん
まほうのかたなに切られそうな木	渋谷区立中幡小学校 (2年)	吉澤 広太さん
うんどうかいのおもいで	東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部 (2年)	高谷 知瑛さん
雪と夜の町	江戸川区立東小岩小学校 (3年)	森 悠葵さん
犬	絵画造形サークル (3年)	井本 菜暖さん
暗いハート	東京都立大塚ろう学校 永福分教室小学部 (3年)	北畑 咲希音さん
40年前の王様	東京都立葛飾ろう学校小学部 (3年)	池田 俊也さん
背中に輝く勲章	荒川区立第二日暮里小学校 (4年)	桑 心海さん
自分のすがお	葛飾区立末広小学校 (4年)	奥村 悠輝さん
さつねとお花	国立市立国立第四小学校 (4年)	福岡 眞帆さん
夜のライトアップ東京タワー	渋谷区立中幡小学校 (4年)	吉岡 莉那さん
戦いの夜	福生市立福生第一小学校 (4年)	東谷 晃希さん
葉っぱの中にかくれんぼ	足立区立平野小学校 (5年)	富澤 樹さん
飛ぶ	絵画造形サークル (5年)	根岸 春樹さん
これぞ大道芸人! ピエロ	国立市立国立第四小学校 (5年)	持田 春輝さん
すいこむ鏡	福生市立福生第一小学校 (5年)	牛房 寧織さん
光り輝く金魚の金君	瑞穂町立瑞穂第四小学校 (5年)	東田 遵さん
彫り進み版画「光の道」	足立区立平野小学校 (6年)	寺島 羽奏さん
読書	絵画造形サークル (6年)	福谷 奈々星さん
東京スカイツリー	東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部 (6年)	小川 光太郎さん

銅賞

虹と鳥	絵画造形サークル (1年)	曾根 綾乃さん
ジェットコースターにのっておさんぽ	渋谷区立中幡小学校 (1年)	外山 莉子さん
うんどうかい	東京都立大塚ろう学校 永福分教室小学部 (1年)	石川 紬さん
虹の四次元魚	江戸川区立東小岩小学校 (4年)	一倉 諒介さん
不思議な丘	葛飾区立こすげ小学校 (5年)	松田 小桜さん
深海パーティー	中央区立有馬小学校 (5年)	斉藤 翔さん
幸福の神	大田区立多摩川小学校 (6年)	清水 康平さん
犬	絵画造形サークル (1年)	佐藤 凜幸さん
おはなばたけ	渋谷区立中幡小学校 (1年)	塩野 さなさん
23版目のカメレオン	慶應義塾幼稚舎 (2年)	鈴木 栄人さん
いろいろな色のきゆうでん	品川区立城南小学校 (2年)	大滝 雪稲さん
馬にのったよ。	江戸川区立東小岩小学校 (3年)	中川 アラタさん
重ねてあらわそう	中野区立新井小学校 (3年)	黒田 恋子さん
虹の四次元魚	足立区立平野小学校 (4年)	澤井 優衣さん
不思議な丘	江戸川区立東小岩小学校 (4年)	松田 小桜さん
幸福の神	葛飾区立こすげ小学校 (5年)	松田 小桜さん
虹と鳥	中央区立有馬小学校 (5年)	斉藤 翔さん
幸福の神	大田区立多摩川小学校 (6年)	清水 康平さん

銀賞

うんどうかいのおもいで	東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部 (1年)	茨城 さくらさん
チェロをひく	絵画造形サークル (2年)	大槻 怜生さん
夏の思い出	東京都立葛飾ろう学校小学部 (3年)	猪狩 月乃さん
おにの山	江戸川区立下鎌田西小学校 (4年)	藤瀬 周さん
ダークホース	国立市立国立第四小学校 (5年)	任 賢さん
真夜中のふくろう	多摩市立諏訪小学校 (6年)	池上 琴音さん

金賞



チエロをひく

絵画造形サークル（2年）

大槻 怜生さん

選評

チエロを左手でしっかりと持ち、ポーズをとる演奏者。その視線の先には、チエロがあります。作品に近付いて、耳を澄ますと、チエロから流れる音楽や演奏者の歌も画面から聞こえてくるような作品です。楽器や演奏者のしなやかさが、とても印象的です。この作者は、チエロをひいたことがあるのか、音楽が好きなのかもしれません。



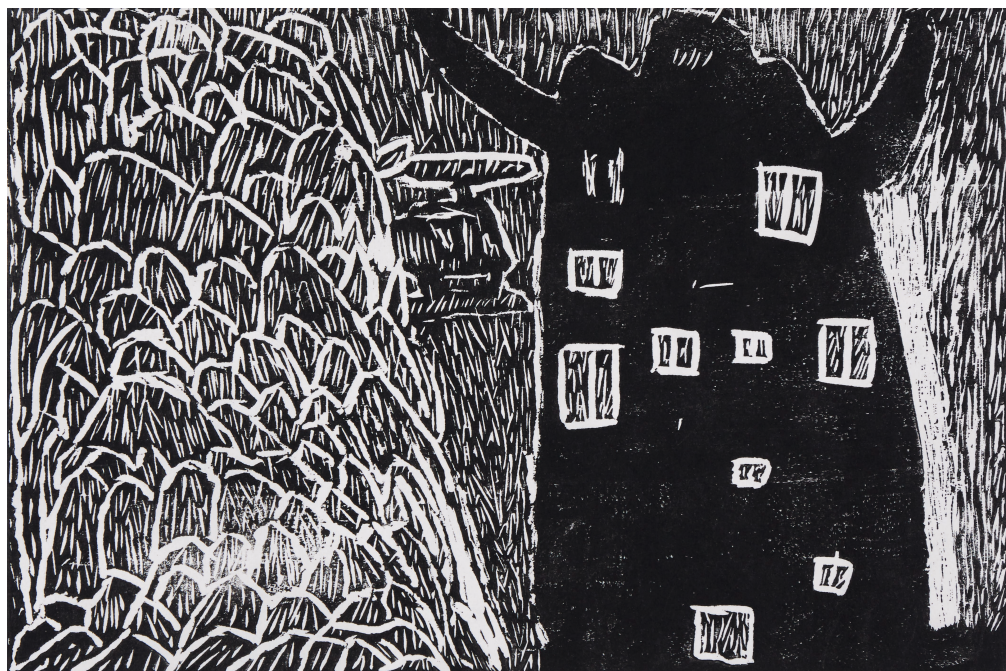
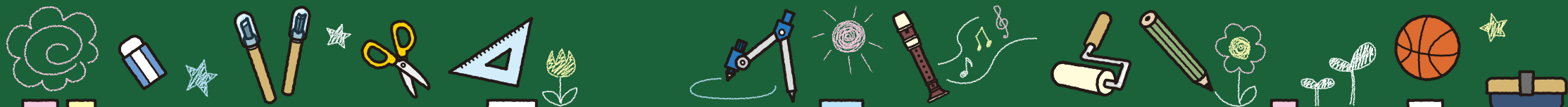
うんどうかいのおもいで

東京都立大塚ろう学校
城東分教室 小学部（1年）

茨城 さくらさん

選評

とても迫力ある配置で人物の表情がとても印象的な作品です。大きく配置された人物は自分自身なのでしょう。版にする紙をいろいろな表したい形に切る、貼る、を根気よく繰り返し、てつくっている様子が感じられます。また、1年生ということから初めての運動会に参加した楽しさ、今にも動き出しそうな元気が伝わってきます。



金賞

おにの山

江戸川区立下鎌田西小学校（4年）

藤瀬 周さん

選評

初めて彫刻刀を使って版画を彫って表したのでしようか。山の木々の重なりや、窓のようなものがある、おにの形をした山も彫られています。森のような形の重なりや、太い線の勢いが、画面の左側を占め、もりもり大きく広がる感じが伝わり、また、反対に、あえて黒い部分を多く残したおにの山が、面の中の存在感を高めています。立ち止まって、このお話を聞きたくなる作品ですね。



金賞

夏の思い出

東京都立葛飾ろう学校小学部（3年）

猪狩 月乃さん

選評

いろいろな材料を使っておもしろい模様を生かし組み合わせで表しています。黒1色で刷られていることから模様のおもしろさをより引き立たせています。画面に構成された二人の表情が楽しそうですね。お天気の良い夏の山、虫取りの網、麦わら帽子、手をつないでいる様子、表情など見る人に楽しい思い出を伝えてくれる作品です。



金賞

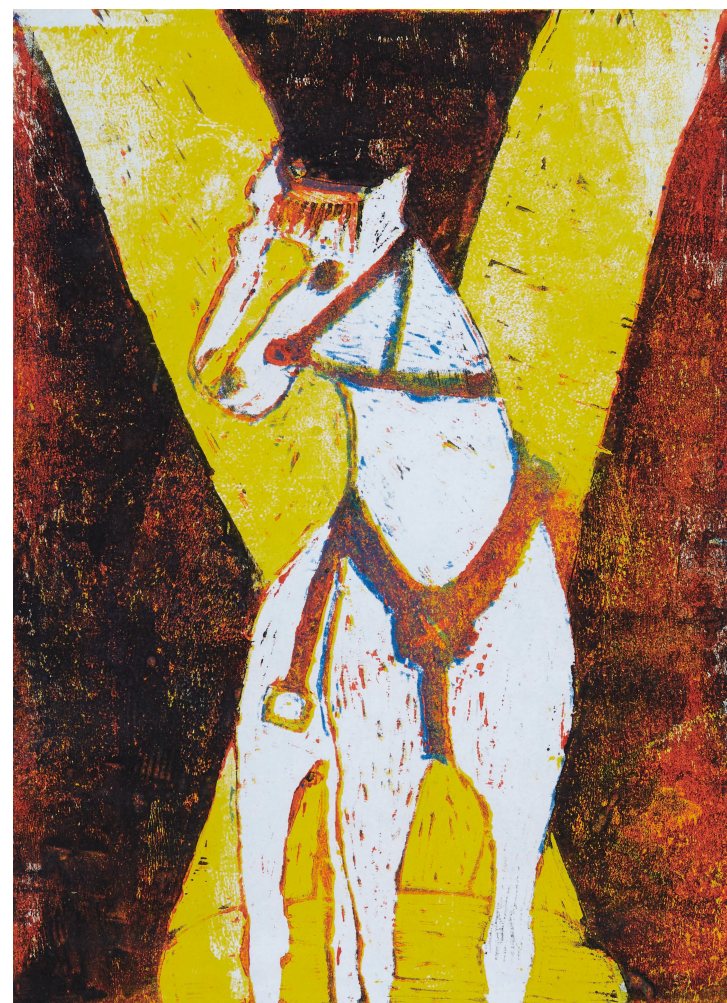
真夜中のふくろう

多摩市立諏訪小学校（6年）

池上 琴音さん

選評

このふくろうは、何を考えているのでしょうか。何かを見つめるふくろうの瞳が、とても印象的な作品です。刷りに使っている色は、とてもシンプルですが、ふくろうの羽根の向きや質感、また、強い力で見つめるふくろうの瞳の表現には、とても見る側も驚かされます。6年生で、今までの経験を生かした作品となっていますね。



金賞

ダークホース

国立市立国立第四小学校（5年）

任 賢さん

選評

彫り進み版画は、彫り、刷りを繰り返して重なる色や模様を計画しながら表していく少し難しい技法です。堂々と画面中央に配置された白い馬、ライトアップされた背景でより白い馬が際立っています。丁寧に彫られた跡から、彫刻刀で考えながら彫り、刷り重ね、紙をめくって完成したときの達成感、構図や馬の表情から前後の物語までも想像させてくれます。



銀賞

23 版目のカメレオン

慶應義塾幼稚舎（2年）

鈴木 栄人さん

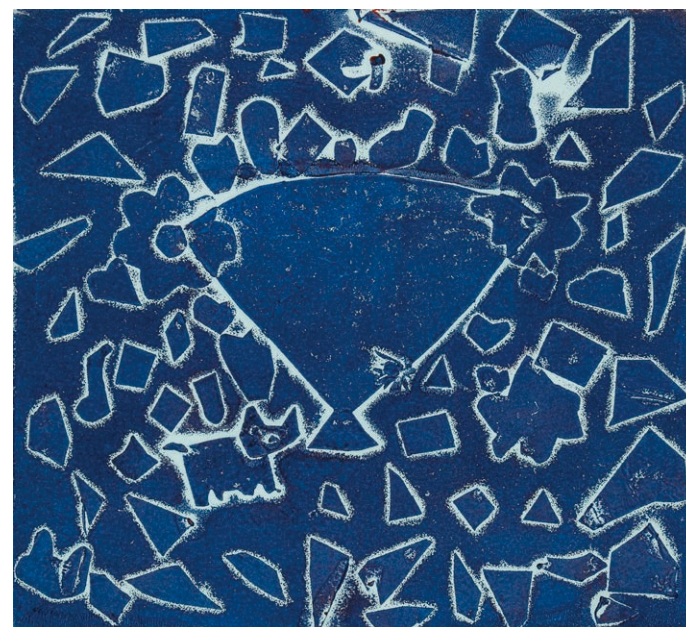


銀賞

犬

絵画造形サークル（1年）

佐藤 凛幸さん



銀賞

ながながうさぎ

品川区立城南小学校（2年）

大滝 雪稲さん



銀賞

おはなばたけ

渋谷区立中幡小学校（1年）

塩野 さなさん



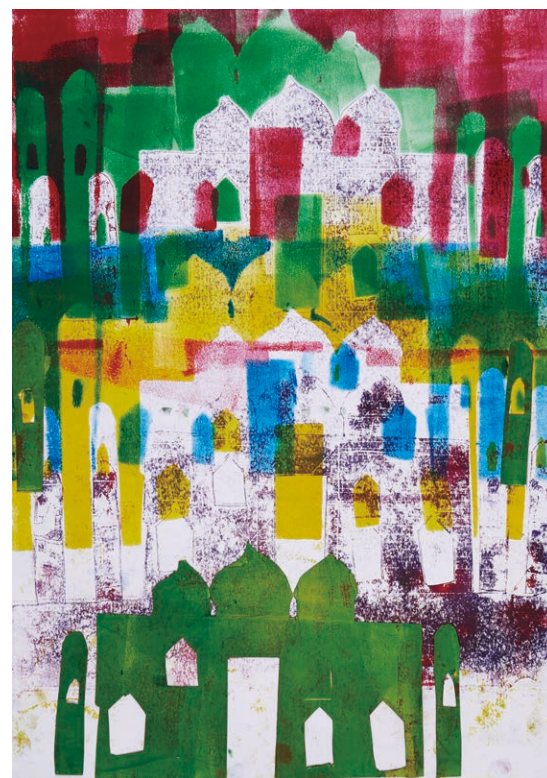


銀賞

重ねてあらわそう

足立区立平野小学校（4年）

澤井 優衣さん



銀賞

いろいろな色の
きゆうでん

江戸川区立東小岩小学校（3年）

中川 アラタさん



銀賞

虹の四次元魚

江戸川区立東小岩小学校（4年）

一倉 諒介さん

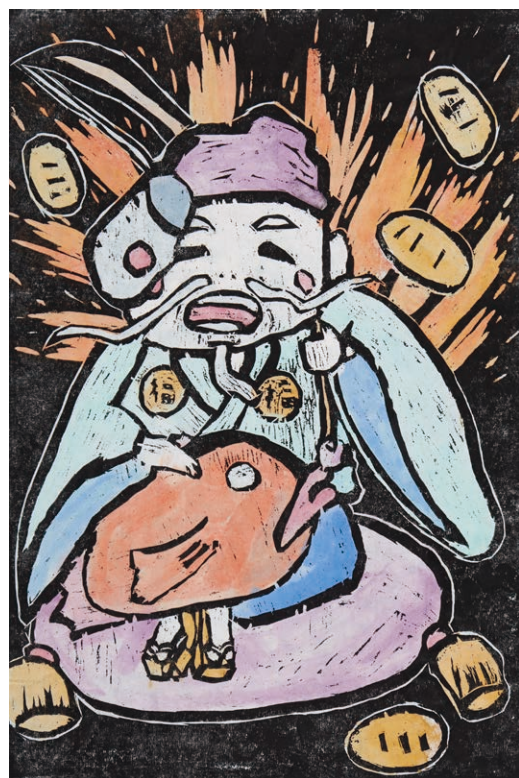
銀賞

馬にのったよ。

中野区立新井小学校（3年）

黒田 恋子さん





銀賞

幸福の神

大田区立多摩川小学校（6年）

清水^{しみず}

康平^{こうへい}さん

銀賞

不思議な丘

葛飾区立こすげ小学校（5年）

松田^{まつだ}

小桜^{こはる}さん



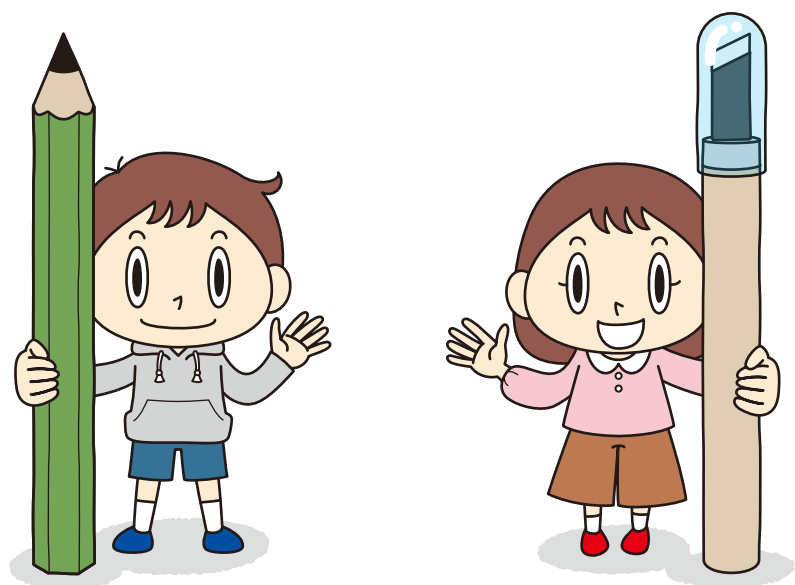
銀賞

深海パーティー

中央区立有馬小学校（5年）

斉藤^{さいとう}

翔^{しょう}さん



応募いただいた学校と作品数

学 校 名	作文	版画	合計
足立区立千寿小学校	1		1
足立区立千寿常東小学校	2		2
足立区立東洲江小学校	2		2
足立区立平野小学校		192	192
荒川区立第二日暮里小学校		4	4
江戸川区立下鎌田西小学校		12	12
江戸川区立東小岩小学校		91	91
大田区立山王小学校	2		2
大田区立洗足池小学校		8	8
大田区立多摩川小学校		10	10
大田区立矢口西小学校	4		4
絵画造形サークル		20	20
葛飾区立こすげ小学校		32	32
葛飾区立末広小学校		57	57
国立市立国立第四小学校		27	27
国本小学校	1		1
慶應義塾幼稚舎		1	1
光塩女子学院初等科	24	4	28
江東区立第四砂町小学校	4		4
江東区立元加賀小学校	1		1
国分寺市立第五小学校	289		289
小平市立小平第六小学校	2		2
品川区立伊藤学園	12		12
品川区立御殿山小学校	15		15
品川区立城南小学校		83	83
品川区立第三日野小学校		29	29
渋谷区立中幡小学校		223	223
聖徳学園小学校	2		2
新宿区立市谷小学校	1		1
杉並区立浜田山小学校	2		2
杉並区立方南小学校		18	18
墨田区立第四吾嬬小学校		57	57

学 校 名	作文	版画	合計
墨田区立中川小学校		4	4
墨田区立両国小学校	1		1
成蹊小学校	1		1
台東区立谷中小学校	2		2
多摩市立諏訪小学校		3	3
中央区立有馬小学校		167	167
中央区立常盤小学校		22	22
調布市立深大寺小学校	1		1
筑波大学附属小学校	1		1
東京学芸大学附属世田谷小学校	1		1
東京都立大塚ろう学校 永福分教室小学部		22	22
東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部	6	20	26
東京都立葛飾ろう学校小学部		4	4
東京都立鹿本学園小学部	1		1
桐朋小学校	1		1
中野区立新井小学校		1	1
中野区立白桜小学校	16		16
練馬区立下石神井小学校		149	149
練馬区立泉新小学校	29		29
練馬区立田柄第二小学校		99	99
練馬区立立野小学校	1		1
日野市立日野第六小学校	2		2
福生市立福生第一小学校		31	31
宝仙学園小学校		1	1
瑞穂町立瑞穂第四小学校		23	23
港区立青南小学校	1		1
明星学園小学校	1		1
武蔵野市立境南小学校	1		1
武蔵野市立第四小学校	1		1
明星小学校	1		1
目黒星美学園小学校	15	5	20
総 合 計	447	1,419	1,866

(50音順)

版画の審査を終えて

審査員の先生〈敬称略〉

田中 明美 品川区立立会小学校図画工作専科主幹教諭（東京都図画工作研究会）
後藤 真理子 荒川区立赤土小学校図画工作専科主任教諭（東京都図画工作研究会副事務局長）

版画は鉛筆やクレパス、絵の具で描く活動と比べて、版をつくる、インクをつけて紙に写す、など工程が増え、写したときの見通しをもつ、用具や環境を用意するなど指導や準備などにも根気の必要な活動です。

しかし、子どもたちにとって得られることも多い活動であると言えます。いろいろな材料で版をつくる楽しさ、インクをローラーで伸ばしていく気持ちよさ、写しとるときにそのと紙をめくった時の驚きや喜びなど各工程で得られる感情を味わい習得していく技能の多さから図画工作の教科書にも低中高学年すべてに版画の題材が掲載されています。

審査会場にはたくさんのお応募作品が並べられ、作品それぞれから子どもたちの取り組み過程や込められた思いに想像をふくらませ、審査をさせていただきました。

低学年は初めての紙版画や造形教室での高度な取り組みまでのびのびとした作品が多く見られました。

た。紙版画の版のパーツを切り取り、小さな手で糊付けし組み合わせ、置いていく様子やローラー遊び、スタンプ遊びから生まれる表現の楽しさなどを感じることができました。

中学年になると、凹凸をつくるための材質感の違うさまざまな材料を組み合わせた作品や、初めての彫刻刀を使った木版画の作品まで多岐にわたる表現が出てきました。

特に彫刻刀では何本も丁寧に彫った跡からけがをしないよう慎重に彫っていく様子が見えました。

高学年では、構図の工夫や、刷り上がりを見通して取り組む彫り進み版画や一版多色刷り版画、同じ版を回転させたり重ねたりしながら工夫を凝らして仕上げた作品が多く見られました。特に彫り進み版画では、彫ってから1色目のインクで刷り、前の色を残したいところをまた彫って、2色目のインクを重ねて…と何度も刷りや彫りを繰り返しようやく完成したときの達成感を味わえた様子がよく伝わってきました。



審査中の後藤真理子先生（左）、田中明美先生（右）

全体を通して審査の際には版画活動ならではの表現を生かしているかどうかを軸とし、こだわりのあるモチーフ、感動した思いや大切にしたい記憶など、版画の表現を通して作者の思いを強く感じることができると中心に選んでいます。

最後になりましたが、子どもたちの豊かな表現を引き出し、版画作品を応募してくださった指導者、保護者の皆さまに心より感謝申し上げます。



たすけあいの心から生まれた
多彩な共済で安心の未来を。

全労済
公式キャラクター
ビットくん

一人より二人、二人より三人と広がったたすけあいの輪。
確かな今日と、健やかな未来を守りつづけて、
全労済は創立60周年を迎えました。
常に時代にあった保障のカタチを提供していくことで、
これからも、支えあう安心をさらに大きく広げていきます。



全労済の住まいる共済

新火災共済・新自然災害共済

こくみん共済

新総合医療共済

新せいめい共済

マイカー共済

自賠責共済

団体生命共済

交通災害共済

新セット移行共済

全労済は、営利を目的としない保障の生協として
共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとり
ある暮らしをめざしています。出資金をお支払い
いただいて組合員になれば、各種共済をご利用
いただけます。

保障のことなら
全労済
全国労働者共済生活協同組合連合会

応募作品数・学校数

作文の部

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計
応募作品数	20	88	78	92	101	68	447
応募学校数	13	8	8	7	11	9	35

版画の部

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計
応募作品数	92	167	52	686	303	119	1,419
応募学校数	6	7	7	20	13	7	31

応募作品数合計……………**1,866点**

応募学校数合計……………**63校**

※作文の部、版画の部の両方、および複数の学年にご応募いただいた学校
があるため、各部の応募学校数の合計とは異なります。

全労済東京推進本部



全国労働者共済生活協同組合連合会

東京推進本部

(東京労働者共済生活協同組合)

〒 160-0023 新宿区西新宿7-20-8
TEL : 03-3360-6055